都々逸エレキ冊子

唄う阿呆に詠む阿呆

都々逸ヱレキ冊子

唄う阿呆に　詠む阿呆

甘党

はじめに

都々逸、と言われてピンとくる人ってどれくらいいるんでしょうか。
短歌はメジャーな定型詩で現代でもたくさん詠まれており、市民権を得ている。
川柳も「サラリーマン川柳」などで親しまれています。俳句は言わずもがな、文学的にも評価が高いし義務教育でも習う。日本人なら松尾芭蕉や小林一茶を知らない人はいないでしょう。
しかし都々逸となるととたんに漂うマイナー臭。「え？七七七五？季語はいらないの？何それ美味しいの？」という反応を見かけたことが何度もあります。
ジブリのあの人の言葉を借りれば、

黙れ小僧！

お前に都々逸の不幸が癒せるのか。季語を詠めない人間が、色と洒落ばかりを折り込んだ苦肉の策が都々逸だ。一般人には何それと言われ、詠み人たちにはマイナーだと

笑われる、俗で日陰で切ない和歌だ。　お前に都々逸を救えるか！

くらいのマイナーっぷり。
しかしながら歴史はそう浅くありません。元は名古屋節、お座敷歌として唄われていたものが江戸時代に都々逸坊扇歌によって庶民文化として広まったもの。
昭和の中頃までは三味線を片手に寄席で必ず唄われていたそうです。今でも頻度が落ちたとはいえ、都々逸といえば寄席で唄うものです。
有名なものをいくつか挙げてみましょう。

散切り頭を叩いてみれば　文明開化の音がする

三千世界の烏を殺し　主と朝寝がしてみたい

恋に焦がれて鳴く蝉よりも　鳴かぬ蛍が身を焦がす

「あ、聞いたことある」と思った方、いらっしゃるのではないでしょうか。そうです、教科書にも載っていたりします。意外と身近なものなのです。

イメージとしては江戸時代頃の心意気や色、風刺を洒落交じりに詠んだもの。

「散切り頭を」は明治維新の風刺ですし、「主と朝寝がしてみたい」なんて色気があって素晴らしいですよね。「鳴かぬ蛍が」のようにうまいこと言った！ みたいな歌も多くあります。

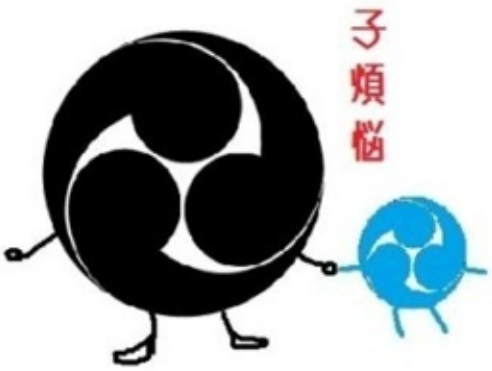
一度聞くと覚えてしまう語呂の良さ、調子の良いリズム。いにしえの時代から七五調の染み付いた僕たち日本人の心に響かないわけがありません。

僕にとってはなぜか短歌より馴染みがよく、詠みやすく、ふざけやすく、身近で楽しい七五調。

その魅力に取り付かれて気付けば毎日のように詠んでしまい、どうしようもなくなってツイッターに投稿したのが事の始まり。

同じような都々逸詠みたちが夜な夜な集まり、詠めや唄えやと騒ぎ始めたのです。

そんな「都々逸クラスタ」たちの宵の宴をまとめたのがこの本です。
読んだ方々が少しでも都々逸に興味を持ち、そしてご自分で詠んでくださったらこんなに嬉しいことはありません。



目次

都々逸のルール　11
ツイッター都々逸百選　16
都々逸コラム「今では文字数に縛られると安心します」　砂漠谷レマ
名作台無し都々逸　34
都々逸コラム「大喜利と都々逸の親和性」　みそ味
題詠「道連れ」　43
都々逸コラム「都々逸ワールドへの入り方〜悠佳里の場合〜」悠佳里
歌詠み「嘘じゃない」　50
都々逸コラム「白梟のひとりごと」　ルオ

百人一首都々逸　59
都々逸コラム「歌詠みねずみの作り方」　せいや
対談「腐女子の扉を叩いてみれば　文明開化の音がする」　84
都々逸コラム「都々逸と腐女子」　ふちさき
どどどどいつ　106
神戸節　112
ツイッター都々逸　返歌二十五選　120
あとがき　128

都々逸のルール

短歌が五七五七七であるのに対し、都々逸は七七七五。
七七七五にはそれぞれ名前がついており、上七、中七、下七、座五と呼ばれます。
頭に五をつけて「五七七七五」で詠むときもあります。季語は不要です。

都々逸の独特なところはリズムに制限があること。
元が節をつけて唄うものなので、唄いやすいリズムというものがあるわけです。
七文字をさらに細かく分け、上七は三四のリズムに。中七は四三、下七は三四。
つまり、「三四、四三、三四、五」で詠むのが正式です。
上七と下七は「四四」の字余りが認められています。中七は「二五」のリズムでもよいとされています。

例を挙げてみましょう。次のふたつは同じような情景を詠んだ都々逸ですが、どちらが「正式なリズム」なのか分かりますか？

四　三　三　四　四　三　五

青空高く　香る秋風　追いかけたいよ　うろこ雲

三　四　四　三　三　四　五

秋の香りに　青空高く　僕を走らす　うろこ雲

ご覧のとおり、後者が「正式なリズム」の都々逸です。比べてみていかがですか？
確かに正式なリズムの都々逸の方がしっくりくるというか、唱えやすく調子が良いと感じます。

リズムの他にもうひとつルールがあります。それは「川柳止めの禁止」。
川柳や短歌では「～をさせ」「～してしまい」などの運用形で終わる形を多用しますが、都々逸ではこれを嫌います。完結に終わらせるのが粋という考え方のようです。
ここでも例を見てみましょう。

手のひらの上にひとひら　はらはらり　舞う牡丹雪　また落ちて消え（短歌）

はらりはらりと舞い散り消える　熱い手のひら　牡丹雪　（都々逸）

はらりはらりと舞い散る雪の　ひとひら　手のひら　溶けて消え　（川柳止め）

こちらの三首も同じ情景を詠んだもの。三番目が川柳止め都々逸です。さて皆さんはどれがお好きでしょうか。

短歌は終わりに余韻を持たせる叙情的な形、都々逸は言い切り型で粋を表現。僕はそのように理解しています。あえて都々逸を川柳止めで終わらせることで短歌寄りの叙情的な表現になる効果もあるよなと思ったり。

ぶっちゃけて申し上げますと、僕個人は厳密にルールを守ることは求めていません。自由に好きに詠んだらいいと思っています。ルールを度外視することで別の効果を狙ったり、どうしてもリズムより優先させたいものがあったりもします。ルールは知っ

た上でわざとやってるんです！ いいんです！ などと心の中で言い訳しながら。
偉い先生や落語家の師匠たちが聞いたら怒られそうな認識なので先に謝っておきます。
ごめんなさい生きててごめんなさい。

もちろん、節に乗せて唄うときは物理的に唄いづらいのでリズムは大事。
ルールが全てじゃない、遊び心も大切だと思いながら、ルールを厳粛に守った都々逸が美しいのもまた事実。悩ましいことです。

さて、次の章からはたくさんの都々逸をご覧いただきます。
基本ルールは基本ルールと理解した上で、ルールを厳密に守ってみたり軽やかに飛び越えて見せたりする都々逸詠みたちの生態をどうぞお楽しみ下さい。

五年十年
一緒にいれば
誰かに似てくる 大欠伸
猫亭屑屋

ツイッター都々逸　百選

一．わけもないのに止まらぬ動悸　誰が盛ったか　惚れ薬　和純

二．声を枯らして人魚の涙　寄せてあつめて首飾り　東風

三．都々逸詠んだらスマホにメモる　揺れる電車の帰り道　悠佳里

四．エナメルパンプス踵を鳴らす　地団駄踏めないその代わり　ふちさき

五．出目金すくって満足そうな笑顔に心はすくわれて　ルオ

六．嘘を並べる策士のくせに不意うちなんて…好きだばか　あこ

七．花は枯れども　貴女の色は　ときにあわせて増すばかり　Y.G

八．　川に飛び込む　男が沈む　あの歌声が　そうさせる　　砂漠谷レマ

九．　私の中で静かに光る　貴方に逢いたい居待月　　ぷっち

一〇．一年経っても実らぬ果実　いっそ燃やして無くそうか　　猫屋久太

一一．スマホ読書にお喋りふたり　もひとりスマホのフルハウス　　あやめ

一二．うつむく瞳　浴衣の紫陽花　心変わりを　知った夜　　楓ようこ

一三．「やめてお願い」その声で鳴く　ごめん、ダメそれ逆効果　　はすむかい

一四．世界の色が昨日と違う　恋をしただけ十八歳　　てむ

一五．帯に短し　たすきに長し　浮世の義理は　堪え難し　　おとした

一六．算数みたいにひとつっきりの答えを探せば行き詰る　ごろー

一七．五十年前契った時と同じ言葉で口説かれる　ひらたてる

一八．不可算名詞の love　指折りで数える隣の美人な娘　ほいる

一九．冷気切り裂く 鋭い声で　殺気抑える 百舌一羽　猫亭屑屋

二〇．紅葉眺める彼女を見てる　彼に気づくは 僕ひとり　みそ味

二一．人の喧嘩の歴史を学び　マークシートを塗りつぶす　下弦

二二．組んだ足元ゆらゆら揺れるブーツのフリンジ　冬が来る　あっくん

二三．梅雨を迎ふる 難波の空も　押さへ湛ふる 恋の露　卜部

二四．泣きたきゃ泣けよと言ったあんたが　何で一緒に泣くんだよ　トマト

二五．すいた部室にカンバスを置く　きみの油絵　見える位置　とととこ

二六．スカイプ使えりゃ楽なのになと　寒空歩く投票日　せいや

二七．苦心腐心し漸く開発　折り畳み式恋心　福山桃歌

二八．いいこと十二個探して深夜　やなこと一個抱いて朝　豆太

二九．今は停電　ただ暇潰し　さみいさみいと　三味を弾き　姐御

三〇．誰かの代わりでいいからなんて　そんなつもりは無いのにさ　小早川

三一．武器が必要なのではなくて　憎む心が不必要　猫亭屑屋

三二. 愛しいあなたと息絶えるまで　行きたい 生きたい　いばら道　　和純

三三. 好きと笑ったあの日の嘘は　あの日は確かに嘘だった　　ごろー

三四. それでも許してもらおうなんて　よくよく私を知っている　　下弦

三五. 後悔しないとつぶやくあなた　タイを解く手が震えてる　　はすむかい

三六. ほんまはずっと好きやってんで？　嘘や、ほんまは今も好き　　おとした

三七. 星が命を燃す瞬間に　願いを託す罪の子ら　　せいや

三八. 大好きですよ、冗談ですよ　嘘は言わない主義ですが　　豆太

三九. 聞こえにくいと 顔寄せ合って 君も喜ぶ 雨模様　　ぷっち

四〇．千代に八千代に実がつく日まで　その死が二人を別つまで　　東風

四一．澄みたる夜空に欠けゆく月を　一人眺むるオフィーリア　　ふちさき

四二．試食したいよ　そのチョコじゃなく　チョコを差し出す指のほう　　ひらたてる

四三．一人でないと上手に僕を呼べない君が可愛くて　　あやめ

四四．メールしようか　しないか悩む　月は黙って　見てるだけ　　トマト

四五．単語、公式ばかりを覚え　できることなど増えぬまま　　あこ

四六．二十六字じゃ伝えきれない　だから触って確かめて　　福山桃歌

四七．あの子を慕うた思春期が死に　青い野原へ墓参り　　とところ

四八．桜咲いたら一年生と　歌う姿に涙する　　悠佳里

四九．春が来る度花が咲きます　主に幾度も惚れるよに　　ひらたてる

五〇．夏が終わると悲しみながら　続く暑さにこぼす愚痴　　てむ

五一．平賀源内お空の上で　泣くか笑うかうなぎの日　　ほいる

五二．秋の長夜に長雨と来りゃ　歌を詠むより他になし　　せいや

五三．桜咲けどもまだ雪は降る　悲鳴凍えるホトトギス　　豆太

五四．気づけば1年　こうして君を　だんだん振り切り生きていく　　Y.G

五五．君がじゃあねと離したこの手　温さ消えてもまだ痛む　　あこ

五六．そんなところはいやだと言うし　やめればもっとと言われるし　あっくん

五七．「星が動くよ」飛行機指した　君とおんなじ　目がほしい　みそ味

五八．般若の面を　うなじに掛けて　女一人の鬼ごっこ　姐御

五九．赤銅色した月笑うよに　キラキラ輝く星の群れ　悠佳里

六〇．いたいのいたいの飛んでいけって　魔法使いのママがいう　ふちさき

六一．抱えて寝たいと思いはするが寝かせてやれる気もしない　あやめ

六二．ぶって抱きしめキスして嘲笑う　愛し方さえかたやぶり　福山桃歌

六三．酒の肴に溢した歌を　しらふでも一度囁いて　東風

六四．謎解き問答繰り返しては　答えをカラスに盗まれる　はすむかい

六五．高知娘を口説いてみたら二四度（仁淀）の誘いじゃなびきゃせぬ　ルオ

六六．主は七味よ　ピリリと辛い　そばにいるから　手が伸びる　猫亭屑屋

六七．人の波間に埋もれる前に　ほら逃げなくちゃ逃げなくちゃ　はすむかい

六八．きんのアンテナ　ブリキのこころ　ぼくのとかえてくれまいか　せいや

六九．寂しくなるからここで破いて　貴方を帰すその切符　ほいる

七〇．へらり笑って私を許す　愛が無条件幸福　砂漠谷レマ

七一．星の欠片を　拾い集めて　音符にしたの　君のため　楓ようこ

七二．愛だ恋だは　捨てられるのに　情にかわれば　手放せぬ　　猫屋久太

七三．寄って退(の)いては推し量る距離　酔って泣いてで　なし崩し　　ごろー

七四．花盗人と罵りゃいいさ　露わの花は散らすもの　　ルオ

七五．桜の蕾が膨らみ始め　君と出会った春が来る　　悠佳里

七六．悪いがあんたを愛してしもた　お国言葉が変わるほど　　福山桃歌

七七．堅く閉じてたコブシの花が　春の光に手をのばす　　砂漠谷レマ

七八．主に触れたは一夜の夢だ　覚める前から知っている　　ひらたてる

七九．まんざらでもない人　夢に出て　今頃あの人　誰の人　　下弦

八〇．優しくしてよ　海風香る坂でぽっぴん吹くように　　あっくん

八一．間違い探しをしながら歩く　久しい街で待ち合わせ　　ごろー

八二．噛んで千切ろか　あんたの舌を　二枚もあんならええやんな？　　和純

八三．空中殺法　三角飛びして　斜め上飛ぶ　猫と猫　　猫亭屑屋

八四．貴方次第と　俯く人に　触るる術無き　情無さ　　卜部

八五．言えない文句を　奥歯に噛んで　飲めばストレス　吐けば毒　　下弦

八六．言葉ほぐして　紡いで編んで　誰と繋がる　愛し糸　　おとした

八七．思い薄れた幼い日々へ　髪を引っ張る金木犀　　てむ

八八．気遣う言葉を掛けるのならば　待って 終電時間まで　　みそ味

八九．下手の横好きわかっちゃいるが　やむにやまれぬ歌の道　　あこ

九〇．惚れたが負けだと意地張り合って　決着つかない恋勝負　　ごろー

九一．愛でもしないで飼い殺すから　縄抜けばかりがうまくなる　　東風

九二．重ねた唇 二人の距離は　好きが溢れる ゼロセンチ　　ぷっち

九三．涙雨 下を向いてる ばかりじゃきっと 見逃している 空に虹　　猫亭屑屋

九四．よくもそんなに小さな羽で飛べますことと鳥の声　　とととこ

九五．ここに残した 椿の意味を　聡い君だけ 知ればいい　　砂漠谷レマ

九六．製氷皿にはまったまんま　空に気泡を吐いている　　あやめ

九七．つらい悲しい　かまってほしい　こころはなれぬ　恋病　　トマト

九八．月を見ろ　右があんたで左が俺だ　あんたばかりが満ちてんだ　　和純

九九．この身重ねた　覚えはあれど　こころ重ねた　覚えなし　　Y.G

一〇〇．　好きじゃないよと　強がる嘘が　花火の音で　聞こえない　　小早川

常にりんごは
りんごのお味
好きな気持ちと同じよう

（ひらたてる）

「今では文字数に縛られると安心します
（二十代女性・都々逸詠み歴約一年）」
砂漠谷レマ

最初に都々逸って何だろう、ああ七七七五なんだな、と知ってから約一年、今ではあらゆる会話に都々逸のリズムを探すようになってしまいました。ふと喋った言葉が七五七五で何となく悔しい気分になってしまうこともしばしば。ですが七五のリズムに縛られるのは決して不自由ではなく、むしろ自由です。創作はしているけど文字数制限があるのってなんか面倒そうだなあ、興味はあるけど一体どんなものなのか、という方々へ都々逸の魅力を少しでもお伝えできたらと思います。

都々逸とは江戸末期に初代の都々逸坊扇歌によって大成された口語による定型詩で、七七七五の音数律に従います。男女の恋愛を主題としていたので情歌とも呼ばれ、元来はお座敷や寄席で三味線と共に歌われました。ですから声に出して読んだ時にリズムがよく、明治時代の「ざんぎり頭を叩いてみれば文明開化の音がする」やアルプス一万尺の歌詞「アルプス一万尺小槍の上でアルペン踊りを踊りましょ」と身近に口ずさまれるものになっていったのでしょうね。

またもっとリズムよく歌うために七七七五を三四・四三・三四・五と分けて詠まれるようになりました。例えば「立てば・芍薬・座れば・牡丹・歩く・姿は・百合の花」と声に出して読んでみるとぴったりとして語感がよいですね。

初め私はこの三四・四三・三四・五が何とも曲者だと思っていました。文字数に囚われることなく使いたい言葉で自由に詠めばいいじゃないかと。しかし都々逸のリズムを口ずさみながら「望月」の単語を入れようとした時、するりと言葉が続いたのです。あれほど言葉選びに苦労させられたそのリズムこそが歌詠みのサポートをしてくれた、私にとっての転機の瞬間でした。

それからは気に入った単語があれば三・四・五のどこかに入れてみて、あとはしっくりくるイメージと言葉を想像します。今では文字数に縛られることでリズムに乗った言葉を見つけながら歌を詠んでいる思いです。私はそれまで気の赴くままに言葉を選ぶことが自由だと思っていました。しかし今では都々逸のリズムに手を引かれるままに言葉が選ばれてくることこそが自由なのではないかと思います。

こんな風に都々逸を詠んでいると、Twitterの都々逸クラスタさんたちが自分の詠んだ歌に合わせて返歌を下さることがあります。都々逸はひとつが二十六文字か三十一文字と短く他の人たちと交流しやすいのも都々逸の魅力の一つです。思えば詠み始めてから一年近くで約五百首を詠んでいましたが、ひとえに「みんなで歌を詠む」楽しさがあったからこそです。

例えば体育の日に中学生になりきる市立都々逸中学校詠み、バレンタインデーのチョコ詠み、六月のウェディング詠みや七夕詠みと季節に合わせて開催される歌会は本当に楽

しいものです。誰かの歌に返歌して物語を続けてみたり、頂いた返歌にこんな解釈があったのかと新たな視点を見つけたりと、全員が歌会全体を盛り上げていくお祭り精神に溢れています。

思い出深い都々中体育祭の最終リレーでは、リアルタイムで歌のバトンを繋いで制限時間内に全員でゴールするという文芸創作らしからぬ何ともアグレッシブな歌詠みを行いました。あの時の感動は「市立都々逸中学校体育祭（http://togetter.com/li/394958）」にまとめられていますのでもし興味があればぜひご覧ください。

文芸の創作活動って書いているその時は大抵孤独なものですが、Twitterを利用することでリアルタイムに迅速な反応が得られるのでみんなと一緒に歌会のお神輿を担いでいる感覚を共有できます。夜が更けてくると艶っぽい方向へ進んでいくのはもはやお約束ですね。

初めは七七七五の縛りがきつくて慣れないかも知れません。しかししばらく試しているとリズムが手を引いてくれて自由に歌詠みできる瞬間が訪れます。この電子書籍で都々逸詠みの魅力を少しでもお伝えできたら嬉しいですが、実のところ習うより慣れろで始めてみたらきっと分かってもらえると思います。最後にこの一首を詠んで終わりとさせて頂きます。

「じゃ、いつやるか？と　今から聞くね
　それが本当に　なればいい」

あたまから
くらう
けつから
くらう

名作台無し都々逸

和歌の世界には「本歌取り」という言葉があります。
元となる和歌の一句もしくは二句を自作に取り入れて詠む手法のことです。本歌を背景として用いることで歌に奥行きを与え、表現の重層化を図る効果があります。
平安時代には「歌を盗んでいる」と批難を受けた過去を持つ手法ですが、現在は元歌が明らかな場合は表現技法として認められています。

そんな伝統ある手法を用いて名作都々逸を台無しにしてみました。
もはや大喜利の領域ではありますが、どうぞお楽しみください。

【引用元】名作台無し都々逸：http://togetter.com/li/206018

けんかしたときこの子をごらん　仲のよいとき出来た子だ
―けんかしたときこの子をごらん　お前はほんとに俺の子か？　ふちさき

恋に焦がれて鳴く蝉よりも　鳴かぬ蛍が身を焦がす
―恋に焦がれて鳴く蝉よりも　家で飼うならカブトムシ　みそ味

愚痴もいうまい　りん気もせまい　人の好く人持つ苦労
―愚痴もいうまい　りん気もせまい　ただしツイート荒らぶらせ　姐御

君は野に咲くあざみの花よ　見ればやさしや寄れば刺す
―君は野に咲くあざみの花よ　外見も中身も棘だらけ　ふちさき

不二の雪さえとけるというに　心ひとつがとけぬとは
―不二の雪さえとけるというに　こんな問題解けぬとは　小早川

雨の降るほど噂はあれど　ただの一度も濡れはせぬ
　―雨の降るほど噂はあれど　一度も会話に入れない　　みそ味

たとえ姑が鬼でも蛇でも　ぬしを育てた親じゃもの
　―たとえ姑が鬼でも蛇でも　憎いことにゃあ変わりゃせん　　ふちさき

あの人のどこがいいかと尋ねる人に　どこが悪いと問い返す
　―あの人のどこがいいかと尋ねる人を　うるせぇ黙れと 追い返す　　姐御

惚れた数からふられた数を　引けば女房が残るだけ
　―惚れた数からふられた数を　引けばだぁれも残らない　　小早川

およそ世間にせつないものは　惚れた三字に　義理の二字
　―およそ世間にせつないものは　ヤろう三字に　ダメの二字　　みそ味

たった一度の注射が効いて　こうも逢いたくなるものか
　―たった一度の注射が効いて　気付けば立派な薬中だ　　ふちさき

これほど惚れたる素振りをするに　あんな悟りの悪い人
　―これほど惚れたる素振りをするに　次元の壁が邪魔をする　　姐御

白だ黒だとけんかはおよし　白という字も墨で書く
　―白だ黒だとけんかはおよし　グレーが今年の流行です　　みそ味

船頭殺すに刃物はいらぬ　雨の十日も降ればよい
　―船頭殺すに刃物はいらぬ　重石を付けて沈めとけ　　ふちさき

お前死んでも寺へはやらぬ　焼いて粉にして酒で飲む
　―お前死んでも寺へはやらぬ　葬式代が勿体ない　　ふちさき

ぬしによう似たやや子を産んで　川という字に寝てみたい
　―　ぬしによう似たやや子を生んで　認知してよと迫りたい　　みそ味

信州信濃の新ソバよりも　わたしゃお前のそばが良い
　―　信州信濃の新ソバよりも　パスタ食べたい　あとプリン！　　姐御

ゆうべしたのが今朝まで痛い　二度とするまい箱枕
　―　ゆうべしたのが今朝まで痛い　二度と寝るまいド下手糞　　ひらたてる

立てば芍薬座れば牡丹　歩く姿は百合の花
　―　【牡丹しか花を知らない場合】
　　立てば牡丹で座れば牡丹　歩く姿は超牡丹　　みそ味

今も昔も 離れていても
下弦
飛び交うおもいは 星のよう

都々逸と大喜利の親和性

みそ味

私は3年程前からインターネット大喜利を始め、色々な大喜利サイトに顔を出すようになったのですが、その過程で、Twitterと介して他のオオギリスト達と交流し、ネタを発信していく中で、「大喜利としてのネタをつぶやく行為」と「短歌や都々逸などの定型詩をつぶやく行為」は非常に似ている、と思うようになり、都々逸もネタの一環として詠むようになりました。

大喜利の基本スタイルは、「お題をもらって、それに面白おかしく答える」というものですが、オオギリストはお題に沿って答えることを考えると同時に、いかに歯切れよく、無駄の無い言葉を選べるか、というところも重要視します。

例えば、「体育祭にありがちなこと」というお題があったとして、「部活動対抗リレーで柔道部員がバトン代わりに畳を持って走る」という答えが浮かんだとして、それを推敲して「柔道部のバトンが畳」、などと簡潔で伝わりやすい答えにしていく、という作業をします。この推敲の際に「助詞抜き」や「体言止め」がよく使われるのですが、定型詩でも同じように使われる修辞法です。

言ってみれば、大喜利的視点で都々逸などの定型詩を見た場合、「字数制限ありのお題フ

リー大喜利」という（やや強引な）言い換えができ、定型詩的視点で大喜利を見れば、「自由律による題詠」という言い換えもできるのではないか、というのがずっと私の中にある考えです。

また、大喜利と都々逸を見比べた際のもうひとつの共通点として、「ユーモア」というものが欠かせない要素であると思います。大喜利はそもそも寄席の余興から始まったもので、言わば落語のスピンオフといったものです。都々逸については、もともとお座敷や寄席などで行われた出し物で、どちらも「大衆娯楽」としての色が強いものです（大喜利の出し物に都々逸が含まれる場合も多いです）。都々逸は短歌などの定型詩に比べて「しゃれ」や「おどけ」を含んだものが多く、大喜利の笑いとも非常に近いものが多いと感じます。

例えば、有名な都々逸に「いやなお方の 来るその朝は 三日前から 熱が出る」というものがありますが、これは「このところずっと体調が悪い理由」という大喜利のお題があったと仮定して、その答えとして成立しています。

また、都々逸はその遊びやすさから、各人が笑いを競うという、大喜利的な遊びに発展することもあり、境目が良い意味ではっきりしていないと感じます。その一例として、この書籍にも収録されている「名作台無し都々逸」（有名都々逸の一部を改変して台無しにするという遊び）があります。ツイッター上

で行われたその様子は、まさに大喜利そのものである、と言えるのではないでしょうか。

このように、大喜利と都々逸には非常に共通する部分が多く、大喜利から入った私としても、都々逸を詠むことで大喜利の勉強にもなると思っています。どちらもやっていることで両方にいい影響を与えるものだと思うので、都々逸を詠まれる方は是非この機会に大喜利にも手を出してみるというのはいかがでしょうか。

題詠「道連れ」

消えてあげるわ　なんにも告げず　優しい嘘を道連れに　　楓ようこ

溺れる時には一緒がいいと　引き寄せ抱いた細い首　　ふちさき

さぁ召し上がれ　お好きなものを　林檎　ザクロにきびだんご　　あっくん

人生道連れ　二人で一つ　どちらかの命果てるまで　　悠佳里

作り笑いを道連れにして　嗚咽の我慢も総崩れ　　ごろー

尽きる時にはあなたも一緒　繋いだ指先　解(ほつ)れさせ　　福山桃歌

共に歩いて死地への道を　それか帰ろう産道へ　　砂漠谷レマ

良くて砂地の人生だろう　この手望んでくれるかい　　ひらたてる

主を覚えた刃を喉へ　刹那散る紅　後世で、また。　　和純

見れば見らるる　近やかな人　連れて年ふる　例の顔　　卜部

あかあおみどり　どんな景色も　君の香りで彩られ　　てむ

逃がしゃしないと　三々九度の　盃交わして　五十年　　小早川

揺られ揺られて　視線を交わす　立つの座るの　駅遠し　　下弦

苦楽合わせて　歩きましょうか　川を越えゆく　その日まで　　おとした

主と手を取りゃ地獄も天国　ついて行きたいどこまでも　あこ

袖を引くのは　戻らぬあの日　捨てられぬなら道連れに　はすむかい

昏い荒道　しじまの伴は　淡く背を押す銀の月　東風

水脈は違えど誓いのもとに　連理は朽ちる　黎明に　あやめ

ここで逢ったが　十八年目　あの世の果てまで　ついていく　ぷっち

並び刻んだ　足音二つ　空へ続いた　道の先　トマト

地獄さえもとおまはん言うが　ならば縁切り独り逝く　ルオ

ともに一路を　歩んだはずが　千里も歩けば　道ズレる　　猫亭屑屋

妻も妾も　ついてはこない　ぬしを連れての　死出の旅　　Y.G

「道連れくらい」と言わねば良かった　旅で道どめ夜は無さげ　　とと こ

君と私は一蓮托生　地獄の底まで連れていけ　　ほいる

好きがだめなら傷にしてよと　わらい地を蹴り空を飛ぶ　　せいや

ほんに愛しい
お前が見えぬ
滲む世界が
邪魔をする

都々逸ワールドへの入り方
～悠佳里の場合～

悠佳里

『なんといってもあなたのよさは
　　わたしに惚れる風変はり』

これは、数年前にニコニコ動画で偶然見つけた歌。そして、私が都々逸にはまるきっかけになった歌です。

この歌に出会った当時、彼と付き合い始めたばかりでした。何の取り柄もない私を大切にしてくれる。なんで私を選んでくれたんだろう、でも大切にしてもらえるのがすごくうれしい。そんな、彼に対して抱いていた気持ちが、そのまま歌になったようでした。

「きっとこの歌を詠んだ人も、同じように思っていたんだろうなぁ…」そう思うとぐっと身近に感じ、一気に興味がわいてきたのです。一度火がつくと抑えられない性分の私は、そこから都々逸について調べてみました。そしたらまぁ素敵な恋歌がたくさん！都々逸が生まれたのは江戸時代だというのに、今読んでもときめくような、艶っぽい歌がどんどん出てきたんです。衝撃でした。口が開いているのも気づかないくらい、夢中になって読んでいました。都々逸は、短歌や俳句と違って今の日本語に近い分、すんなり意味が分かるし、文章も堅苦しくない。でも、日本らしい、粋で奥ゆかしい表現もある。もともと歴史や古文が好きだった私は、ますます都々逸が気に入ってしまったのでした。

すっかりはまってしまった私は、物は試し

と、ツイッターでも『都々逸』で検索してみました。すると、『歌詠み75』なる文字が…なになに、同じテーマで定型詩を詠むって？都々逸もOK…そうか、今も都々逸を詠む方がいるんだ！じゃあ、あたしもやってみようかな。

この軽い気持ちが自分の今後を変えるとも知らず、さっそく都々逸を作り始めました。詠んだ都々逸こそ忘れてしまいましたが、お題は忘れもしない『かきのたね』。何首か考えてツイートし、主催の小早川さんに褒めてもらい、味をしめ、今に至る…単純ですね(笑)あの時の喜びが忘れられなくて、都々逸クラスタの素敵な歌の数々に触発されて、今も都々逸を詠み続けています。

都々逸の成立は江戸時代末期。二百年程たっていますが、今読んでも、その美しさや奥深さは全く色あせません。それに、今の私たちと全く変わらない、誰かを思う愛しさや切なさがいっぱい詰まっています。『情歌』とも呼ばれるほど恋の歌が多い都々逸ですから、皆さんの心に響く都々逸がきっとあるんじゃないでしょうか。今の自分をそのまま表したような、そんな歌が。私が、このコラムの一番初めに書いた歌に出会ったように、皆さんが自分にぴったりの都々逸に出会ってくれたら、それがこの本の中にあったら、こんなにうれしいことはありません。そして、都々逸の世界を、読んだり、詠んだりしながら楽しんでもらえたらなぁと思います。

歌詠み「嘘じゃない」

僕がツイッターではじめてやってみた企画が「歌詠み７５」でした。
ルールは「七文字か五文字の規定句を必ず入れて詠む」こと。
ツイッターでは初めに考えたものを投下しながらまわりを見て、別の観点で詠んでみたり返歌をしたり規定句を切ったり貼ったり変換したり、折句も使って詠み尽くします。折句とは句の頭文字に別の意味を持つ言葉を織り込む言葉遊びです。

「**だ**から何なの　**い**まさら遅い　**す**ぐに泣くとこ　**き**らいなの」　東風

この都々逸の頭文字だけを取ると「だいすき」になりますね。このような手法を折句といいます。こう言ってはなんですが「縦読み」と原理は同じです。

今回の規定句は「嘘じゃない」にしてみました。
さて、どんな嘘が登場するのでしょうか。

嘘じゃないよと嘘つき言えば　その嘘こそが嘘となる　　ルオ

誠意問われて言葉に窮し　嘘じゃないのに嘯を吹く　　東風

「嘘じゃないのよ」真っ赤な嘘が　白々しさとでおめでたい　　ほいる

聞いた噂が嘘じゃないなら　愛など一夜だけの夢　　はすむかい

嘘じゃないけど　本当でもない　主の言葉に　騒ぐ胸　　楓ようこ

嘘じゃないのよ　信じて欲しい　ここまで言うのは貴男だけ　　悠佳里

切な心に　堪えかね告げる　涙見せるな　嘘じゃない　　トマト

嘘じゃないんだ　好きだったのも　も一度好きにはなれぬのも　　あっくん

グラスに沈めた打ち明け話　全部忘れた　嘘じゃない　　小早川

嘘じゃないよと笑ったくせに　その笑みすらもが嘘だった　　ふちさき

初(うい)の陣　戦ぐ風にも時雨(じう)にも折れぬ　柳の心ぞ　いざ参る　　和純

嘘じゃないとはよく言ったもの　最後のキスに口歪め　　福山桃歌

見目も言葉も声すら紛い　この息だけが　嘘じゃない　　あやめ

嘘じゃないから死ぬまで共にいたと証明する定理　　砂漠谷レマ

時計見なさい大嘘じゃない　「今日はまっすぐ帰るから」　せいや

嘘じゃないとか嘘だと思う　私わかるよそれくらい　ひらたてる

泳いでいるのは　カワウソじゃない　着ぐるみ着てる痛い海女　猫亭屑屋

嘘じゃないのよ　八百屋町　歩いたはずなの　地図通り　下弦

返ってくるんが優しい嘘じゃ　泣いて本音も　言われへん　おとした

嘘じゃないよとひとこと言えず　空に溶けてく淡い恋　てむ

嘘じゃないのよ涙も全部　だからお願い気づかずに　あこ

「愛」だ「好きだ」は信じてみても　決して信じぬ「嘘じゃない」　Y.G

嘘じゃないよと　互いに告げる　甘く切ない　この気持ち　ぷっち

嘘にあらずと　蛇の目の内の　泣きの涙の　いとほしさ　ト部

嘘じゃないとはもう言わないで　要らない期待をしてしまう　ごろー

伸びるお鼻も折られて今や明かして言おう　嘘じゃない　とと こ

あなたが灯した 線香花火
夏に始まる 恋の花
♡ぷっち♡

白梟のひとりごと

ルオ

都々逸と私。このテーマを前に、さてはて、そもそも私が都々逸にのめりこんだきっかけは何だったかなと、パソコンに向かう前に注いできたアイスココアをひとすすり。粋に日本茶でとやれないところが猫舌の辛いところですが、好きなようにやらせて頂きましょう。書き溜めた都々逸を取り出すべく螺鈿の箱を……なぁんてことも勿論なく、ワードを立ち上げます。

どうやら私の最初の都々逸は次の三つのようです。「胸の涙は乾きはせぬが主（ぬし）の為よと散る桜」「散るが条理と枝葉は告けど誓い護らぬ奴で無し」「主（ぬし）が月夜に居れぬは道理表に出さぬ傷愛（かな）し」。前二つが小早川さんの目に止まり、宜しければ一緒に唄いませんかと、魅力的な方々の集う都々逸クラスタ（ツイッター上での同好の士の集まり）の輪に仲間入りさせて貰うことに相成ったわけです。実はそれまで、都々逸という形式は知っていても有名どころに触れるだけで唄ったことはなかった私。短歌や俳句のほうが余程馴染み深く、小早川さんより先にどなたか短歌クラスタや俳句クラスタの方に誘われていたら、都々逸クラスタではなかったかもしれませんね。

というわけで、私と都々逸の関係性を形成するのは、その場の流れです。以上終わり。

……等と宣って早々に打ち切ると諸兄に叱られそうなので、続けます。最初に挙げた

都々逸が三つだったことですし、都々逸、特にツイッターでの都々逸の魅力、不肖ながらこの白梟（ツイッターアイコンが白梟であることからの自称）ことルオが、述べさせて頂きましょう。

一つ目。定型であるため、短い形で完結するということ。これがツイッターとの親和性が非常に良い。ツイッターは百四十字が上限ですから、ルビを振ったとしてもまず百文字は余る。そこにハッシュタグをつけるも良し、解説を添えるも良し、作品にプラスアルファを加えるにはもってこいです。私が現在ツイッターで都々逸の次に好むついのべ（一つのツイートで一つの小説を完成させる作品形式）ではそうはいかない。毎回百四十字では足りず泣く泣く推敲という名の文章を削る作業に入るわけです。これには私自身の問題もあるわけですが、それにしても、字数制限があるのはある意味諦めがつきやすい。逆に、どう唄えば収まりが良いか、同じ文字数でも口の中で転がして触りがより良いのは何か、言葉を吟味する楽しみが広がるのです。

二つ目。返歌がしやすい。これはどちらかといえば都々逸クラスタゆえかもしれません。特に同じテーマで詠んでいると、今まで話したことのない人でも、すっと返歌を差し上げることが出来る。このおかげでフォローし合い親しくなった方も多数いらっしゃいます。今まで育ってきた文化も読んできた本も全く違う人と交流できるのが楽しい。言葉というのは時に如実にその人の価値観が出ますからね、実に面白い。

三つ目。全力でふざけられる。これは、都々逸にしかないでしょう。俳句や短歌も大好きですが、そちらはどうも、俗っぽさとは無縁なものという印象が拭えず、唄えるものが狭まる。それに対して都々逸は、風刺もあれば情愛もある、冗談にくるんで真面目な話も伝えられる、最高じゃないですか。まぁ、まだまだ青二才ですので、お兄様お姉さま方のお好きな艶歌には、手が出せずにおりますがね。

挙げていけば他にも色々ありますけれど、ひとまずはこんなところになりますか。百聞は一見に如かずと言いますが、この場合は、さしずめ百読は一唄に如かず、興味を持ったら是非唄ってみて下さい。

それでは、私はこれにて筆を置かせて頂きます。ここまで読んで下さった貴方に心からの感謝を。

百人一首都々逸

百人一首。
百人の歌人の和歌を一人一首ずつ選んでつくった和歌集のこと。藤原定家が京都・小倉山の山荘で選んだとされる小倉百人一首はあまりにも有名ですね。
言わずと知れたこの百首を都々逸に変換するという無謀な遊びに取り組んでみました。
しかも都々逸は二十六字という制限付きです。

途中「不朽の名句をさらに文字数の少ない都々逸に変換できるか！ そのままが一番に決まっているじゃないか！」とキレる人が現れるほどの難題。
古語、現代訳、意訳、超訳、入り乱れております。

都々逸クラスタたちの団体芸、どうぞご笑覧ください。

一．
秋の田のかりほの庵の苫をあらみ　わが衣手は露にぬれつつ
粗く葺かれたかりほに座せば　衣にしたたる秋の雨　　下弦

二．
春過ぎて夏来にけらし白妙の　衣干すてふ天の香具山
白き衣のはたはたなびく　天の香具山　夏が来る　　小早川

三．
あしびきの山鳥の尾のしだり尾の　ながながし夜をひとりかも寝む
愛しいあなたに逢えないままで永遠のような夜にひとり　　福山桃歌

四．
田子の浦にうち出でて見れば白妙の　富士の高嶺に雪は降りつつ
田子の浦より　遙かに望む　雪も妙なる　富士の嶺　　卜部

五．
奥山に紅葉踏み分け鳴く鹿の　声聞く時ぞ秋は悲しき
秋の深まる奥山響く　悲しささそう鹿の声　　悠佳里

六．鵲の渡せる橋に置く霜の　白きを見れば夜ぞ更けにける
天の鵲　夜空を渡り　霜より白き　橋を掛け　　卜部

七．天の原ふりさけ見れば春日なる　三笠の山に出でし月かも
故郷思えば夜空ににじむ　三笠の山と同じ月　　小早川

八．わが庵は都の辰巳しかぞ住む　世をうぢ山と人はいふなり
人の浮世は　戌亥の都　憂しと眺むる　宇治の山　　卜部

九．花の色は移りにけりないたづらに　わが身世にふるながめせしまに
花も移ろふ　いたづらな世に　ふるや我が身に　此のながめ　　卜部

一〇．これやこの行くも帰るも別れては　知るも知らぬもあふ坂の関
出会い別れて逢坂の関　これは知る人知らぬ人　　小早川

一一．わたの原八十島かけて漕ぎ出でぬと　人には告げよ海人の釣船
かいなく来れぬ妻へと告げよ　漕ぎ出す我の八十（やそ）の愛　ルオ

一二．天つ風雲の通ひ路吹きとぢよ　乙女の姿しばしとどめむ
今は曇れよ　晴れの舞台は　空に見せるにゃ　惜しすぎる　おとした

一三．筑波嶺の峰より落つるみなの川　恋ぞ積もりて淵となりぬる
積もる想いを例えるならば　筑波の山のみなの川　小早川

一四．陸奥のしのぶもぢずりたれゆえに　乱れそめにしわれならなくに
しのぶもぢずりの模様のように　心乱すは誰のせい　悠佳里

一五．君がため春の野に出でて若菜摘む　わが衣手に雪は降りつつ
君に捧げる　命を摘んだ　袖を染めゆく　雪の色　トマト

一六．立ち別れいなばの山の峰に生ふる　まつとし聞かば今帰り来む
いなば別るる　たちまちの月　かかるあふせに　おいてまつ　　卜部

一七．ちはやぶる神代も聞かず竜田川　からくれなゐに水くくるとは
神代続いた竜田の川を　もみぢくれなゐ　色染める　　小早川

一八．住の江の岸に寄る波よるさへや　夢の通ひ路人目よくらむ
よるも寄するも　住江の波　夢も人目を　避くるかた　　卜部

一九．難波潟短き蘆のふしの間も　逢はでこの世を過ぐしてよとや
逢へぬ端には　方方思ひ　長く伏したる　あした哉　　卜部

二〇．わびぬれば今はたおなじ難波なる　みをつくしても逢はむとぞ思ふ
一歩踏み出しゃ　戻れはせぬと　君へ導く　澪標　　トマト

二一．今来むといひしばかりに長月の　有明の月を待ち出でつるかな
すぐに来るよと言ってた君を　待ってる夜長に月が出る　悠佳里

二二．吹くからに秋の草木のしをるれば　むべ山風をあらしといふらむ
嵐という字を分析すれば　山を荒らして吹く野風　小早川

二三．月見ればちぢにものこそ悲しけれ　わが身ひとつの秋にはあらねど
月を眺むる　心も千々に　ひとりみの空　秋の宵　卜部

二四．このたびは幣も取りあへず手向山　紅葉の錦神のまにまに
祈りたくとも幣も足りぬ　身せめて捧ごうこの紅葉　ルオ

二五．名にしはば逢坂山のさねかずら　人に知られで来るよしもがな
頼む言霊　逢坂山で　くるか君待ち　さねかずら　トマト

二六．小倉山峰の紅葉葉心あらば　いまひとたびのみゆき待たなむ
　も一度来ようか　あのかた連れて　それまで散るなよもみぢ葉よ　ごろー

二七．みかの原わきて流るるいづみ川　いつ見きとてか恋しかるらむ
　メールどころか喋りもせずに　頭の隅に消えぬ人　　あやめ

二八．山里は冬ぞ寂しさまさりける　人目も草もかれぬと思へば
　北風小僧がさびしさを蒔き　眠り始める僕の里　　あっくん

二九．心あてに折らばや折らむ初霜の　置きまどはせる白菊の花
　折るや折らぬや　此の初霜に　紛れ真白き　菊の花　　卜部

三〇．有明のつれなく見えし別れより　暁ばかり憂きものはなし
　つらき別れに　有明の月　憂しと眺むる　あした哉　　卜部

三一．朝ぼらけ有明の月と見るまでに　吉野の里に降れる白雪
吉野の里に降る白雪は　静かな朝の月のよう　　福山桃歌

三二．山川に風のかけたるしがらみは　流れもあへぬ紅葉なりけり
風がはらはら落とした紅いしがらみ川にとどまりて　　福山桃歌

三三．ひさかたの光のどけき春の日に　しづ心なく花の散るらむ
ひかり柔らか　腑抜けた春に　生き急ぐなよ　さくら散る　　猫亭屑屋

三四．誰をかも知る人にせむ高砂の　松も昔の友ならなくに
友は何処か　此の高砂の　松は応へず　かひもなし　　卜部

三五．人はいさ心も知らずふるさとは　花ぞ昔の香に匂ひける
並木も街も　見慣れた君も　居ないがにおいは変わらない　　あやめ

三六．夏の夜はまだ宵ながら明けぬるを　雲のいずこに月宿るらむ
夏の夜明けに　急き立てられて　月が駆け込む　雲の宿　　下弦

三七．白露に風の吹きしく秋の野は　つらぬきとめぬ玉ぞ散りける
風に転びて　白露の玉　秋の野に散る　光なす　　卜部

三八．忘らるる身をば思はず誓ひてし　人の命の惜しくもあるかな
消ゆる我が身を　惜しみはせぬが　捨つる汝が身を　命こひ　　卜部

三九．浅茅生の小野の篠原忍ぶれど　あまりてなどか人の恋しき
篠の葉風にささめくようにしのびきれないこの恋は　　福山桃歌

四〇．忍ぶれど色に出でにけりわが恋は　ものや思ふと人の問ふまで
秘めたる想いを隠してみても　頬の紅(くれない)お見通し　　楓ようこ

四一．恋すてふわが名はまだき立ちにけり　人知れずこそ思ひそめしか
ひらひら舞って人に知られて秘めたつもりの恋す蝶　福山桃歌

四二．契りきなかたみに袖をしぼりつつ　末の松山波越さじとは
「朝が西から明けぬ限り」と　私を照らさぬ君の愛　あやめ

四三．逢ひ見ての後の心にくらぶれば　昔はものを思はざりけり
何故に逢い見て　しまっただろう　触れねば恋も　知らぬのに　おとした

四四．逢ふことの絶えてしなくはなかなかに　人をも身をも恨みざらまし
たまの逢瀬が　かえってつらい　会えぬ時間に　君想う　トマト

四五．あはれともいふべき人は思ほえで　身のいたずらになりぬべきかな
たった一言　「馬鹿な男」と　言ってくれなきゃ　死にきれぬ　おとした

四六．由良の門を渡る舟人かぢを絶え　ゆくへも知らぬ恋のみちかな
　櫂を無くした舟人ふたり　行方知れずの恋の道　　和純

四七．八重むぐら茂れる宿の寂しきに　人こそ見えね秋は来にけり
　皆が忘れた場所にも秋が来たと知らせる八重むぐら　　福山桃歌

四八．風をいたみ岩打つ波のおのれのみ　くだけてものを思ふころかな
　どうせ恋など　独り相撲で　岩にぶつかり　砕け散る　　おとした

四九．御垣守衛士のたく火の夜は燃え　昼は消えつつものをこそ思へ
　心を真似るかそのかがり火は逢瀬の夜(よ)ばかり燃え上がる　　ごろー

五〇．君がため惜しからざりし命さへ　長くもがなと思ひけるかな
　君のためなら死ねると思い　共に生きたいとも願い　　ごろー

五一．かくとだにえはや伊吹のさしも草　さしも知らじな燃ゆる思ひを
　きっと貴方は知らぬのでしょう　身も焦がすほどのこの想い　ふちさき

五二．明けぬれば暮るるものとは知りながら　なほ恨めしき朝ぼらけかな
　夜が来るたび会いに行けるがそれでも夜明けが恨めしい　あっくん

五三．嘆きつつひとり寝る夜の明くる間は　いかに久しきものとかは知る
　君に焦がれる　夜の長さは　待つ我のみが　知る苦み　おとした

五四．忘れじのゆく末まではかたければ　今日を限りの命ともがな
　今すぐ死にたい愛されたまま　忘れられたと泣くよりも　ふちさき

五五．滝の音は絶えて久しくなりぬれど　名こそ流れてなほ聞こえけれ
　どんな人かは　知らないけれど　師匠と聞けば　居は正す　猫亭屑屋

五六．あらざらむこの世のほかの思ひ出に　いまひとたびの逢ふこともがな
やがて行き着く　冥土の土産　一夜逢いたい　愛し君　　ほいる

五七．めぐり逢ひて見しやそれとも分かぬ間に　雲隠れにし夜半の月影
見えたと思えば雲に隠れて　愛しあなたも夜半の月　　てむ

五八．有馬山猪名の篠原風吹けば　いでそよ人を忘れやはする
風が吹くよにそうよと言うわ　どうして忘れるものですか　　ルオ

五九．やすらはで寝なましものをさ夜更けて　かたぶくまでの月を見しかな
月は見ていた　夜明けまで来ぬあなたをぐずぐず待つ女　　福山桃歌

六〇．大江山いく野の道の遠ければ　まだふみも見ず天の橋立
丹後遠けりゃふみもしないわ　母の光にゃ頼らない　　ルオ

六一・いにしへの奈良の都の八重桜　けふ九重に匂ひぬるかな
昔も今も変わらぬさまで　九重に咲く八重桜　てむ

六二・夜をこめて鳥のそら音ははかるとも　よに逢坂の関は許さじ
鳥のそらねで逃げを打つよな　男に開く関は無し　ルオ

六三・今はただ思ひ絶えなむとばかりを　人づてならでいふよしもがな
逢わぬと決めたその心さえ　逢えぬ貴方に告げられぬ　ふちさき

六四・朝ぼらけ宇治の川霧たえだえに　あらはれわたる瀬々の網代木
宇治の朝霧　白白渡り　見ゆる隠るる　網代哉　卜部

六五・恨みわび干さぬ袖だにあるものを　恋に朽ちなむ名こそ惜しけれ
フラれて激おこぷんぷん丸な　私の噂はほんと嫌　あっくん

六六．もろともにあはれと思え山桜　花よりほかに知る人もなし
　我思うときに咲かせておくれ　綻ぶ花はおまえだけ　東風

六七．春の夜の夢ばかりなる手枕に　かひなく立たむ名こそをしけれ
　春の夜の如き手枕のため　甲斐もなく立つ名が惜しい　あっくん

六八．心にもあらで憂き夜に長らへば　恋しかるべき夜半の月かな
　生くをのぞまず　追懐にのぞむ　つらいこのよを　渡る月　下弦

六九．嵐吹く三室の山のもみぢ葉は　竜田の川の錦なりけり
　風を無粋と　ごちるが野暮よ　吹いて織りなす　綾錦　おとした

七〇．寂しさに宿を立ち出でてながむれば　いづくも同じ秋の夕暮れ
　此処も彼処も　寂しい秋を　眺め夕暮れ　コップ酒　猫亭屑屋

七一．夕されば門田の稲葉訪れて　蘆のまろ屋に秋風ぞ吹く
　葦の我が家に　稲葉を分けて　風のまろうど　戸をたたく　　おとした

七二．音に聞く高師の浜のあだ波は　かけじや袖のぬれもこそすれ
　寄するあだ波　高師の浜は　濡るる我が袖　かけもせず　　卜部

七三．高砂の尾の上の桜咲きにけり　外山のかすみ立たずもあらなむ
　あの山に咲く桜が見たい　邪魔をしないで春霞　　てむ

七四．憂かりける人を初瀬の山おろしよ　激しかれとは祈らぬものを
　デレが欲しいと祈ってみてもツンが増してく向かい風　　砂漠谷レマ

七五．契りおきしさせもが露を命にて　あはれ今年の秋もいぬめり
　今年の秋こそ内定欲しい契った言質は千切られて　　砂漠谷レマ

七六．わたの原漕ぎ出でて見ればひさかたの　雲居にまがふ沖つ白波
海に漕ぎ出て彼方の白が雲か波かを見に行こう　ごろー

七七．瀬をはやみ岩にせかるる滝川の　われても末に逢はむとぞ思ふ
岩に阻まれてもまた出会う　川瀬を想い手を離す　てむ

七八．淡路島通ふ千鳥の鳴く声に　いく夜寝覚めぬ須磨の関守
須磨の関守　目覚める夜更け　今日も泣くのか　淡路鳥　小早川

七九．秋風にたなびく雲のたえ間より　漏れ出づる月の影のさやけさ
秋の夜風に　雲たなびいて　さやかもれ出る　月の影　下弦

八〇．ながからむ心も知らず黒髪の　乱れてけさはものをこそ思へ
思い知らせぬ　眠れぬ長き　闇夜と同じ乱れ髪　小早川

八一．ほととぎす鳴きつる方をながむれば　ただ有明の月ぞ残れる
空に残った有明の月　教えてくれたほととぎす　小早川

八二．思ひわびさても命はあるものを　憂きに堪へぬは涙なりけり
恋煩っても命は果てず　落ちていくのは涙だけ　悠佳里

八三．世の中よ道こそなけれ思ひ入る　山の奥にも鹿ぞ鳴くなる
消ゆる道なき　憂き世の山の　奥にひとなき　鹿の声　卜部

八四．長らへばまたこのごろやしのばれむ　憂しと見し世ぞ今は恋しき
この苦しみも思い出になる　今までもそうだったから　てむ

八五．夜もすがらもの思ふころは明けやらぬ　閨のひまさへつれなかりけり
夜っぴて焦がれて東雲遠し　情に乏しき閨の隙　和純

八六．嘆けとて月やはものを思はする　かこちがほなるわが涙かな
地上のお方が　そうさせるのに　月のせいだと　泣きぬれる　下弦

八七．村雨の露もまだ干ぬまきの葉に　霧立ちのぼる秋の夕暮れ
泣いて涙が霧立つならば主を引き留め逢魔が時　砂漠谷レマ

八八．難波江の蘆のかりねのひとよゆゑ　身を尽くしてや恋ひわたるべき
一夜かりねの　難波江の葦　恋し渡らむ　みをつくし　卜部

八九．玉の緒よ絶えなば絶えねながらへば　忍ぶることの弱りもぞする
忍ぶ想いが漏れ出す前に　絶えてしまえよこの命　ごろー

九〇．見せばやな雄島の海人の袖だにも　濡れにぞ濡れし色は変はらず
潮で流して　おとしたはずの　色が残りて　また濡らす　猫亭屑屋

九一・きりぎりす鳴くや霜夜のさむしろに　衣かたしきひとりかも寝む
霜に震えて衣にすがる　ひとり寝に鳴くきりぎりす　小早川

九二・わが袖は潮干に見えぬ沖の石の　人こそ知らねかわく間もなし
私の袖口、海底の石、濡れて乾かぬ塩辛さ　ごろー

九三・世の中は常にもがもな渚漕ぐ　海人の小舟の綱手かなしも
小舟牽く手に　細やかな世も　常しへなれと　乞ふ渚　卜部

九四・み吉野の山の秋風さよ更けて　ふるさと寒く衣打つなり
秋のみ吉野　夜更けの風に　衣打つ音の　響く里　卜部

九五・おほけなく憂き世の民におほふかな　わが立つ杣にすみ染の袖
比叡の拙僧　僭越ながら　墨の袖にて　民を抱く　おとした

九六．花さそふ嵐の庭の雪ならで　ふりゆくものはわが身なりけり
　舞い散る花弁(はなびら)色褪せぬのに　己ばかりが老いてゆく　ふちさき

九七．来ぬ人を松帆の浦の夕なぎに　焼くや藻塩の身もこがれつつ
　待った焦がれた　それでも来ない　藻塩も焦げてる浦の夕　ごろー

九八．風そよぐ楢の小川の夕暮は　御禊ぞ夏のしるしなりける
　風のそよぎが秋の訪れ　伝えて夏を祓う夕　福山桃歌

九九．人も愛し人も恨めしあじきなく　世を思ふゆゑにもの思ふ身は
　いとおしい人うらめしい人　悩む私のつまらなさ　ヒトガタすかい

一〇〇．百敷や古き軒端のしのぶにも　なほ余りある昔なりけり
　しのぶ草花　茂れよ茂れ　御代の名残が　見えぬほど　おとした

舞い賜え　御名も存じぬ桜花の蝶よ
それは恋初め　春麗ら
―和純―

歌詠みねずみの作り方

せいや

皆様こんにちは。ネットの片隅で歌詠みなどをしております、せいやと申します。小早川さんからお話をいただきまして、この書籍にちょこりと書かせていただくこととなりました。本日は都々逸に出会ったきっかけと、ツイッターでよむ都々逸の魅力についてお話させていただきたいと思います。拙い文ですが、お口に合いましたら幸いです。

今でこそ都々逸を読み詠みしておりますが、この和歌の存在を知ったのは僅か一年前のことでした。とある二次創作の小説サイト様で使われていた「モノカキさんに都々逸五十五のお題」に惹かれ、みんな大好きグーグルさんで検索したのがきっかけです。そのせいでしょう、都々逸を見るとつい深読みしたくなってしまうのですが、それは別の話。

そうしてグーグル検索を掛けた一ページに躍り出たもの、それが小早川さんのお作りになったまとめ「都々逸クラスタがあらぶった夜（http://togetter.com/li/204949）」だったのです。記念すべきどどどいつ誕生のまとめ、それに心を撃ち抜かれてしまったのです。……ひとつ弁解を試みるならば、あのとき魅せられたものは歌そのものだけではなく。歌の鮮やかさがゆえにこんなにも虜になってはいるのですけれども、突如現れたお題に対する応えを軽やかに提示し、それにもまた俊敏に反応を返す、その軽快なやり取りに心奪わ

れてしまったのでした。そうしてこそこそと詠んだ初都々逸を小早川さんに拾っていただき、猫さんこと猫亭屑屋さんに返歌をいただいて、嬉しくてぱたぱたと尾を振っているうちにいつの間にやら一年と半が経っていたのでした。

自分の詠んだ歌にリアルタイムで反応してもらえる。ツイッターでの歌詠みの魅力はこの点ではないかと思います。タグをつけて投稿すれば同好の士に見てもらうことができる。他の人が詠んだ歌をクリック一つで探すことができる。作品投稿の場であると同時に歌を介して何かを伝え合う場でもあるのではないかと、人の心を解さぬねずみですら思うのでした。

ヤマもオチもわらじを履いて出かけてしまいましたがつまりあれです、都々逸クラスタはいつでもぬくもりに溢れているのでそこのあなたもれっつ都々逸。

対談「腐女子の扉を叩いてみれば　文明開化の音がする」

ふちさき、小早川

都々逸詠みにはなぜ腐女子が多いのか。
この疑問を抱き続けた編集者小早川が、都々逸詠み腐女子代表とも言えるふちさき氏を迎えての対談を行った。さて、鬼が出るか蛇が出るか。

小早川　こんにちは。小早川です。
ふちさき　おじゃまします、腐女子代表（？）ふちさきです。
小早川　今日来ていただいたのは僕の積年の疑問「なぜ都々逸詠みには腐女子が多いのか」を分析するためなわけですが、まず、なぜふちさきさんをお呼びしたのかというところからお話していいですか？
ふちさき　「来ていただいた」とかいってますが、お洒落なカフェでとかではなく、お互い自宅からのスカイプ対談ですけどね。今日も暑いですね！　お洒落なカフェでアイスティー飲みたかった！（麦茶飲みつつ）

小早川　（コーヒー飲みつつ）いいじゃないですか、対談なんだから！　それっぽくしたって！

ふちさき　「歌詠み７５」（注釈：小早川氏の togetter まとめ参照）の時なんかは、twitter でそれぞれ酒瓶片手ですしね。時代ですね。

小早川　そう……、そんな時代じゃなければ僕は腐女子なんて言葉とは無縁でいられたのに……。

ふちさき　どこにでも紛れているものさ、腐女子というものは――。

「腐女子」という単語が使われ出したのは二〇〇〇年代に入ってかららしいですけどね。自虐の意味を込めての自称だったのが、気付けば俗称になっていた例のひとつみたいです。参照は wiki で！

小早川　あ、そうなんですか。全く知りませんでした。というか、僕は詠み始めたときは本当にＢＬという分野のことを何も知らず、「鬼畜眼鏡」とかいうゲームのことがタイムラインに流れてきたときにはじめてその世界に触れまして。もうすごく驚いたんですよ。

ふちさき　何に驚くのかがまずわからない（笑）

小早川　驚いたポイントとしては、男性同士の恋愛を女性が好むという点ですね。どうして第三者視点？　と。

ふちさき　巷にあれだけ恋愛ドラマがはびこっているんですから、さして不思議はないと思うんですけどね……。

小早川　そうなんですかね？　そんなわけでとりあえずほんの少しの予備知識だけを持っている状態でふちさきさんに出会ってしまった、と。

ふちさき　その予備知識が、なんの役にも立たないものだとその時の小早川には知るよしもなかったのだった……（ナレーション風に）

小早川　本当に、魔王に挑むのにメラしか使えない勇者くらいのレベル差でしたね。いつもどおり日課の都々逸タグ検索をしていて、「おっ、粋な都々逸を詠んでいる人を見つけたぞ！　わーい！」とフォローしに行こうとしてふちさきさんのホームに辿り着き、つぶやきを読んでみたらそこに並んでいたのはとてもレベルの高い世界の会話でした。

ふちさき　「装備：木の棒、布の服」くらいでしたね。

小早川　ほんとですよ！　ほぼ丸腰。

これはいかん、手に負えん！　と思ったのに、都々逸の素晴らしさに手放すのが惜しく、ちょくちょく絡んでしまったのが運の尽きでした。

ふちさき　実はあれが初・都々逸だった、ということが昨日発覚しました。

小早川　じゃあ、僕は一発目で捕捉したんですね、優秀なアンテナだなおい……。

ふちさき　ちらほら他の女性陣（腐女子率高い）に訊いたところ、似たような感じでした。曰く、「都々逸詠んでいたら小早川さんにナンパされた」と（笑）

小早川　いやまあそうなんですけど、僕は君たちを普通の都々逸詠みだと思ってナンパしていたわけですよ。なのに、蓋を開けたらほぼ腐女子ってどういうことだよ！

ふちさき　その謎についてなんですが、腐女子と都々逸の接点がひょんなところから発覚しました。お題サイト！

小早川　お題サイト？　ってなんですか？

ふちさき　言葉のままです。二次創作で小説を書くときなどに、お題サイトさんから「タイトル」や「お題」を借りるのが一時期流行ったんですよね。

で、「モノカキさんに都々逸五十五のお題」というお題サイトさんがありま

して、そのお題サイトさんが古典都々逸を「お題」にしていたんですよ。

小早川　都々逸を題にして小説書いたり絵を描いたりするということですね。

つまり、腐女子の皆さんはそういうところを見て創作するのが好きな傾向にある、と。

ふちさき　わたしは、ネタが浮かばない時に利用してましたね。

ほら、短歌、都々逸もですけど三十一字（二十六字）の中に物語がぎゅっと凝縮されているじゃないですか。その物語を紐解いて、解釈して、お話を書こう！ていうのが趣旨というか。

小早川　なるほど。確かに都々逸や短歌は字数が制限されているのでいろんな解釈ができて、それが面白いという側面がありますね。それを創作に生かすとは、目から鱗です。

ふちさき　腐女子で小説を書いている人は普段から「文章を書く」ことに慣れているので、都々逸とか興味を引かれたんじゃないかなと。

統計とってみないと断言できませんが、過去にポエムと短歌を嗜んだ腐女子は多いと思いますよ。都々逸は存在そのものがマイナーだから知ってい

る人が少なそうだけど（笑）

小早川　なるほど。そのサイトを見て都々逸に興味を持ち、自分でも詠んでみようと思って遊んでみたら僕や猫亭屑屋氏にナンパされて……ということなんですか。

ふちさき　真相はわかりませんが、その都々逸のお題サイトを知っている人はちらほらいらっしゃいましたね。あと、「都々逸」というジャンルは知らなくても、「三千世界の烏を殺し～」とかの有名な歌だけ知ってたりとか。

小早川　そうですよね。マイナーとはいえ「三千世界～」あたりは知っている人も多い。短歌よりも色や情を詠んだものが多いのも関係あるのかな？

ふちさき　「三千世界～」とかロマンですよ！　二次創作における遊郭ものは鉄板ですよ！　男キャラクターなのに遊女設定！

小早川　ちょっと待って落ち着いて、突然レベルの高い話に飛ぶな！

ふちさき　ほら、「三千世界～」って高杉晋作が廓で詠った歌だっていうじゃないですか。夜明けを知らせる鴉を殺して、主（馴染みの遊女）とずっと一緒に居たいっていう。諸説ありますが、高杉晋作説が好きです。

小早川　都々逸は江戸の庶民文化を土壌に栄えたものなので、江戸時代と相性がいいですよね。廓、江戸、歌舞伎、あたりは詠んでるとしっくりきます。

ふちさき　そして、武家文化と稚児文化は切っても切り離せない。

小早川　おおう…そう来ましたか……。

ふちさき　大奥が出来た理由は、三代将軍家光が女嫌いだったからっていう話もあるんですよ（笑）

小早川　あ、それは聞いたことありますね。春日局の苦肉の策。

ふちさき　そうそう。苦肉の策で女性いっぱい集めたら一人くらい気に入るのがいるだろうっていう。なんという贅沢な！

小早川　男のロマン！と言いたいところですが、本人にその気がないとつらいでしょうね。変わって差し上げたいです。

ふちさき　日本は明治で鶏姦律条例がでるまで、男色の文化は普通だったらしくて戦国武将が他の男に浮気したのを恋人（？）に平謝りする手紙が残っているくらいですよ。武田信玄だったかな。

（注釈：鶏姦条例、明治5年に発令された男性同士の性行を禁じる条例）

小早川　ＢＬにも歴史あり……。

ふちさき　あと、源平合戦直前、去年の大河ドラマ「平清盛」で馴染みの宇治左大臣藤原頼長は「台記」に赤裸々な男性遍歴を書き残していますよ。男色文化に歴史ありです。

小早川　男色文化は理解できるんですけど、それを好む女性がいるということが衝撃でして。もう一度最初に戻りますが（笑）。

ふちさき　「腐女子はなぜ男性同士の恋愛の創作物を好むのか」についてはいろんなところで議論されているんですが、結論は出ていません。なので「好きなものは好きだからしょうがない」でスルーするのが一番かと。好きになるのに、理由は特にない。

小早川　そういうものですか。

ふちさき　そういうものです。

小早川　ではなぜ腐女子であることを隠すんですか？　都々逸クラスタたちはふちさきさんのおかげで「腐女子」を連発するようになった僕に「実は私も」「私も私も」と名乗り上げはじめたんですけど。

ふちさき　基本的に、腐女子は腐女子仲間以外にはカミングアウトしないですからね。
小早川　そういうものですか？
ふちさき　そういうものですね。
小早川　じゃあなぜ僕にはカミングアウトを？
ふちさき　カミングアウト云々以前に、ファーストコンタクトのわたしのアカウントが腐女子趣味用のアカウントだったからだよ！
小早川　あっ、そうだった。
ふちさき　隠しようもない。
嫌い（苦手）なら避けるだろう、と思っていたんですが、避けられなかったのでそのまま普通に交流してみました。
小早川　確かに、「腐女子は嫌い」とかって感情はなかったですね。「なにその興味深い嗜好！」みたいな。完全に怖いもの見たさ。
ふちさき　歌詠みアカウントでは、かなり八橋に包んでますから！（いい笑顔）
小早川　お、おう……。（及び腰）
ふちさき　で、本題は何の話でしたっけ。（すぐに話が脱線する）

小早川　ええと、普段は隠れているはずの腐女子たちがなぜ都々逸詠むときに限ってカミングアウトをしだしたか、という話ですかね。

ふちさき　既に強制カミングアウトしていたわたしが、普通に受け入れられてたから隠さなくていいと思ったんじゃないですかね？

小早川　そうか、受け入れられないと思うから隠れるのか。つまり都々逸詠みたちがそのへん特に気にしない人たちだったと。

ふちさき　あと本人たちも腐女子だったからナチュラルに受け入れたと。そうですそうです。特にカミングアウトをしなくても歌は詠めるし付き合えるから黙っている。逆に「受け入れらない」という事例が出来ていたら、我も我もと名乗り出なかったんじゃないかな。

小早川　今ちょっと数えてみたんだけど、僕のフォロワーさん半分くらい腐女子だった。驚異の腐女子率。

ふちさき　女性陣の何割が腐女子なんですか……

小早川　女性に限定すると、二十八人中二十人が腐女子…驚異の七割越え。

ふちさき　お、おう……（戦慄）

小早川　「たぶんこの人は違うよね？　聞いたことないし！」という人は除いております。こわい。腐女子怖い。

ふちさき　そこまでくると確かに「腐女子と都々逸」の関係を疑いたくなりますね…

小早川　そうですよ、僕は純粋に都々逸詠みしかフォローしてないわけですからこの偏りは分析に値すると思わざるを得ないですよ。他にも「ツイッターやめますね！」と去っていった都々逸詠み兼腐女子が数人いましたから、彼女たちを入れると確率さらに上がります。

ふちさき　偶然にしては割合が多すぎる…

小早川　まぁでも、ふちさきさんの分析のおかげでだいぶ腑に落ちました。お題サイトの影響力と、都々逸の持つ背景が腐女子を引きつけやすいという点と。短歌との違いはあると思いますか？

ふちさき　短歌は上品！　な！　イメージ！（即答）

小早川　上品ゆえに汚しづらい、とか？（笑）

ふちさき　短歌クラスタの方が、ＢＬ短歌をやっていらっしゃるんですけど、やはりどこか上品なんですよね。ＢＬというよりＪＵＮＥって感じ！

小早川　JUNEってなんだろう、また新しい言葉が……。
これ以上新しい扉を開いていいものか……（苦悩）

ふちさき　八十年代あたりが主流のちょっとお耽美なBLだと思ってくれれば。「風と木のうた」とかそこらへんの（笑）

小早川　その説明じゃ僕は全然理解できてないですけど、いいです。BLの上品版なんですね。

ふちさき　通じる人には通じるかと（笑）
短歌って「上品」なイメージなんですよね、で、「都々逸」はどうかっていうと、古典都々逸の「ぬしと私は玉子の仲よわたしゃ白身できみを抱く」とか、完全に洒落ですよね……？

小早川　そうですね。駄洒落とかもふんだんに折り込んでます。「糸し糸しという心」とか、「信州信濃の新蕎麦よりもわたしゃあんたのそばがいい」とか。

ふちさき　洒落ですよね……
もしくは「うまいことといってやったぜ！（ドヤァ）」というか。

小早川　わかります、わかります。けして上品ではないから僕もはまりました。

ふちさき　それこそ、酒の肴に笑える歌でも詠んでどんちゃんやろうぜ！　ていう俗っぽさが好きです。

小早川　あれ？　てことは腐女子って上品じゃないんですね？

ふちさき　いつから腐女子が上品だと勘違いしていた……？

小早川　だって君らの都々逸は、とても色気に溢れていて素晴らしいんですよ！　詐欺だよ詐欺！

ふちさき　ふはは、長年培われてきた妄想力と擬態力を舐めてもらっては困るな！

都々逸クラスタの腐女子陣は、はっちゃけっぷりと歌の落差が…うん……

小早川　ふちさきさんは、「貴方のせいだと泣き責め立てて別れて二度目の冬がくる」とか、この都々逸詠んでおいて同じ口でど下ネタ詠むからね。すごい落差。

でも落差という点では腐女子以外の都々逸詠みたちも十分ひどいか。そのへんはこの書籍の「どどどどいつ」の章を参照いただけばわかる通りで。

ふちさき　もう完全に酒の席の勢いですよね

都々逸クラスタが集うと、基本酒盛りの状態。無礼講。

小早川　そう、夕飯くらいの時間からポツポツ集まって、何かを肴に詠みはじめた

と思ったら日付変わるあたりで必ず下ネタに。

ふちさき　どんちゃん騒ぎがお好きな人々、という印象です。

小早川　酒飲みも多いしね。

たまにいる高校生とか大学生とかが清涼剤。

ふちさき　ダメな大人に染まらないといいね……。

小早川　だんだん染まってきてるけどね……。卒業とか就職とかして。

大人の世界って汚いね！（さわやかに）

ふちさき　酸いも甘いも噛み締めて、だんだんと擦れてきているよね！

小早川　そこから生まれる歌もある！

ふちさき　都々逸のいいところは、エゴイスティックな部分も味にして詠めるところだと思ってまいすよ。えごえごあたくし。

恨み辛みもまた一興、酒の肴にして流しちゃえ！ みたいなね。

小早川　そのへんが僕たちを捉えてやまない魅力なんでしょうね。

ふちさき　清流だけじゃなくて、汚泥の部分まで歌にしちゃう、それが都々逸。そしてそれが許される（と思っている）のも都々逸。ここらへんは狂歌に近い

のかな？

小早川　そうですね、狂歌は短歌のリズムで風刺や皮肉を詠んだものですけど、都々逸はそちらに近いものがあるかも。

きれいなものも詠もうと思えば詠めるし。

ふちさき　どどどの生まれた「歌詠み７５」もですけど、揃うと脱線しかしませんよね。それこそ酒の席並みに話があっちに飛んだりこっちに飛んだり。

それをひっくるめて、雰囲気を楽しんでいるというのもあるんですけど。

小早川　ああ、まさにこの対談のように(笑)。

ふちさき　そう、このどこに行きたいのかわからない対談のように。確実に終着駅への乗り換えに失敗しましたよ、これ。

小早川　居酒屋感がありますね。あっちこっちで違う会話。

ふちさき　そうそう。居酒屋なんですよね、都々逸クラスタは。基本、その場のノリでどんちゃんやっている。

小早川　全員が全力で悪ふざけをする。

ふちさき　一人で飲んでいたら、一人増えて、また一人増え、気付けば集団になって

…って、都々逸クラスタが生まれた経緯もこんな感じじゃないですか？

小早川　うん、なんかそうですね。どこからともなく集まって、誘い誘われ詠みはじめ。

ふちさき　寄せ集まって詠んで遊んで。

小早川　脱いで踊って唄って。

ふちさき　今のところ誰もまだ脱いではないはずです。いろんな気楽さが魅力なんでしょうね～って本当に最初の本題はどこ行った。

小早川　そう、だから、その気楽さで腐女子だろうが変態だろうが受け入れた結果の腐女子率の高さ、と。うん、まとまった！（笑）

ふちさき　突然の無茶振りも日常茶飯事の都々逸クラスタですが、例に漏れず『都々逸と腐女子』をテーマにコラム書いてね！」と振られたので、この対談の続編（？）、まとめ編（？）としてコラムっぽいものが載るはずです。

小早川　対談も気付けばえらい長さになったし、どんどん本が厚くなるな。誰が読むんだこんなの(笑)。

ふちさき　歌を詠むには理由は要らぬ、酒の肴があればいい。

小早川　ノリが良すぎるお調子者たち、そこがいいとこ、悪いとこ。都々逸クラスタです。

ふちさき　よし！全然まとまってないけどきれいにまとめた気になった！

小早川　とにかく、腐女子でも腐女子じゃなくても、皆さんお気軽に詠みましょうねーってことで。

ふちさき　興味がおありでしたら、気軽に「七七七五」の歌を土産にふらっと寄ってみてください。

小早川　はい。都々逸クラスタ一同、ツイッターでお待ちしております。

レッツ！都々逸！

ひとを見つめて そらさぬ瞳
肴わけあい 契り盃
猫亭屑屋

都々逸と腐女子

ふちさき

まず初めに、「腐女子」とはいったいどういう存在なのかを説明することから始めましょう。曲がりなりにも「都々逸」のコラムなのに何故「腐女子」と思わなくもないのですが、『都々逸と腐女子』をテーマにコラムを一本」と指定されたので致し方ありません。

対談でも触れられていますが、「腐女子」がどういう存在かを簡潔に説明すると、「フィクションにおける男性同士の恋愛を好む女性（女子）」と理解していただければ、概ね問題ないかと思われます。

さて、このコラムの本題である「都々逸と腐女子」に関しての私見を述べる前に、私が都々逸クラスタに乱入するに至ったきっかけでもお話しましょうか。

都々逸を知ったきっかけは、対談でお話しした「お題サイト」さんの影響なのですが、詠み始めたきっかけはというと、はっきりと覚えていません。都々逸のルールも知らずに、「短歌と似たようなものだよね」と見様見真似で、詠み始めたような記憶があります。

元々、気まぐれに短歌は詠んでいたので、短歌の「五・七・五・七・七」を、都々逸の「七・七・七・五」のリズムに変えて、都々逸の体裁を整えて（お恥ずかしながら、詠み始めた当初は、上七は三・四で区切るという最低限のルールも知らなかったのです）、一人で詠んで遊んでいました。

特に意味もなく、頭の体操がてら一人で都々逸を詠んで遊んでいたわけです。そんな自己完結していたところを、小早川さんに捕獲され都々逸クラスタに引きずり込まれることになるなど、指折り数えて詠み始めたばかりの私は知る由もなかったのです。そして、その小早川さんは、私を捕獲したが故に、一生知らずに済んだかもしれない「腐女子」と「ＢＬ」という未知の世界に、手薬煉を引いた腐女子陣に面白半分に引きずり込まれることになると、誰が予測できたでしょうか。

藪を突いて蛇を出す、腐女子を突いて未知の扉を開く。うっかりとオープンに腐女子を名乗っていた存在と接触をしてしまったが故に、芋づる式に出現する腐女子に包囲され、「この小説は！ お薦めだから！ 読もうよ！」と、三十路にしてＢＬ小説を買わされ、読むことになった小早川さんの心境を思うと、笑いが止まりません。お薦めした小説は、菅野彰さんの「毎日晴天！」シリーズでした。お薦めなので、気になった方は是非読んでみてください。いい作品です。

閑話休題。

本題に戻りまして、なぜ都々逸詠みに腐女子が多いのかということに関して。これも対談の中で話してはいますが、推測できるのは以下の二点ほど。

まず、ひとつめに挙げられるのは、一次・二次創作を問わずに、創作に片足を突っ込んでいる「腐女子」は、「言葉で表現すること」と「なりきって遊ぶ」ことに慣れているということでしょうか。

己の黒歴史をもごりごりと掘り起こすので、あまり思い出したくないのですが、腐女子のみなさん、過去に、「ポエム」を書き綴った記憶はございませんか？

そうです、「ポエム」です。

学生時代、ノートの端に、「詩」と呼ぶには未完成で、今読み返すと悶絶すること間違いなしの、痛々しい「ポエム」を、綴った記憶がないとは言わせません。

もちろん、私はあります。

だいたい「腐女子」の歩んできた道なんて似たり寄ったりなので、ポエムを嗜んだ「腐女子」が、短歌を経て、都々逸に辿り着き、それぞれの理由で今ここに落ち着いているのも、不思議なことではないのでは、と思うわけです。表現において「形式」があるかないかの違いくらいなものですし。

また、第二の理由として挙げられるのは、小早川さんを中心とした都々逸クラスタに、「腐女子」という存在があっさりと受け入れられていたからでしょう。「腐女子」であるということを、カミングアウトしやすい土壌が、出来上がっていたわけですね。

基本的に「腐女子」は【擬態】しているものですから、カミングアウトさえしなければ、ごく普通の女性（女子）がほとんどです。隠すことも、可能です。ですが、都々逸クラスタにおいては「腐女子」はただの「属性」の一種であって、その「嗜好・思考」は、嫌悪の対象とはならなかったので、「属性」としてオープンにしやすかったのでしょう。

「都々逸」を核として成り立っていたコミ

ユニティが、「腐女子」という属性に対して排他的な態度を取らず、どんな属性でもおもしろがって受け入れてしまう懐の広さを持っていた、というところでしょうか。

そもそも都々逸は、世俗的で猥雑な歌も、「これ、洒落だよね？」という歌も、ごろごろと転がっています。きっと、大元がおおらかな界隈なのだろう、と述べたら、きちんと「都々逸」を詠んでいる方々に怒られそうですが、twitter 上の都々逸クラスタは、「おもしろければそれでいいよ」というスタンスを貫いている気がします（笑）

そして、私にとっては、かっちりとした型にはまることなく、あれこれ試行錯誤しては、おもしろいことを求めながら、のんべんだらりと酒の肴に歌を詠って遊ぶ、その「おおらかさ」が腐女子をも惹き付ける「都々逸クラスタ」の最大の魅力でもあると思うのです。

「腐女子の扉を叩いてみれば
受けか攻めかを決められる」

どどどどいつ

夜がふけると人の心は乱れるものです。
夜な夜なツイッターに集まり、都々逸を詠む面々も例外ではありません。

都々逸は粋と洒落を盛り込んだ情歌が得意ですが、夜な夜な乱れた都々逸クラスタたちは情歌を飛び越えた下ネタを嬉々として詠むようになりました。
専用のタグも出来てしまいました。「どどどどいつ」と言います。

その中でも特にひどいものを集めてみました。
苦手な方はまわれ右。どうぞ引き返してください。正しい選択だと思います。
お好きな方はページをめくってお楽しみ下さい。
ただし、後悔しても責任は取れませんのであしからず。

一歩踏み出す　アナザーワールド　痛みを越える　菊の門　　猫亭屑屋

受け止めるから安心してと　笑うおくちにぶちまける　　豆太

H出来ずに　I持て余し　出来ることなど　Gばかり　　みそ味

果てて抜かれて笑ってくれた　恋をしたのはそのときよ　　ひらたてる

悪戯したいと口に出さずに　棒付きキャンディー握りしめ　　はすむかい

熱を孕んだ　君の身体に　白で飾りの　総仕上げ　　おとした

エクスカリバーかざしてみれば　角度が足りずに下を向き　　小早川

勃てば尺八　座れば茶臼　腰が砕けて歩けない　　ほいる

へらず口　主の口吸い　静かにさせりゃ　騒がしくなる　下の口　　猫亭屑屋

南天二つ手と舌這わし更に下って亀とキス　ひらたてる

据え膳食わぬは男の恥と　食うて粗末と笑われる　ふちさき

エロは匂えどちり紙ぬるぬる　我に返って嫁畳む　ほいる

風呂に入って君を想えば　いつのまにやら前屈み　あっくん

すべる指先　震える身体　欲しいところは　そこじゃない　はすむかい

君が先立ちゃ　立つもの勃たぬ　なのに朝勃ち　未練断ち　小早川

我慢しなさい　許可するまでは　どの液体も出しちゃ駄目　ひらたてる

空気嫁すら高嶺の花よ　意外と高いラブドール　　ふちさき

主の股間の満月二つ　袋に入って雲隠れ　　ほいる

猫耳つけてパールを入れて　二本の尻尾を撫で回す　　ひらたてる

その手繋いで　歩きたいけど　他のところも　繋ぎたい　　みそ味

恋をしたから　我慢がきかず　いつもの涙が　白くなる　　姐御

撫でて揺らして　熱くした炉に　思いの丈を差し込んで　　せいや

ふくを脱がせて　金棒持って　豆をまかずに　タネを蒔く　　猫亭屑屋

何もないんだ　相手も金も　だから今夜も自家発電　　小早川

長期戦　微動だにせぬ　鮪が悪い　まさか褥瘡　できるとは　　姐御

ごぼうにキュウリになすびじゃ嫌よ　大根ゴーヤが食べたいわ　　ひらたてる

うぶで清楚なお前が今や　上と下とでよだれ落つ　　ほいる

自分本位の男のモノより　いいとこ責めるマイ・バイブ　　ふちさき

生きてるうちは　立たないくせに　死んだらよく立つ　枕元　　猫亭屑屋

腐女子の花屋は真っ赤な花屋　薔薇はさいたが菊さけた　　ほいる

―　灯り落とした店屋の奥で　散らした菊に白い蜜　　はすむかい

もっと、もっとよ、なじって責めて　頬を染めてはねだるメス　　ごろー

縛られたいのと　びくびく動く　亀の頭に縄かける　小早川

衣脱がせる　野暮などよして　我慢できずに　後背位　猫亭屑屋

ゆうべ二発も　いたしたけれど　朝から元気な　困りもの　みそ味

神戸節

神戸節とは、寛政の時代に遊客の間で唄われた歌のこと。名古屋の熱田神宮の門前、神戸（ごうど）町の宿屋の私娼が発祥のためこの名がつきました。「こうべぶし」ではなく「ごうどぶし」と読みます。それが江戸や上方に流れて「名古屋節」と称されたもので、つまり都々逸の元となった唄なのです。

実際に唄われている神戸節の歌詞を見てみましょう。

おかめ買う奴あたまで知れる　油つけずの二つ折れ
とりい二つ越えて宮まで行けば　尾のない狐に化かされた
宮の宿から雨降る渡り　濡れていくぞえ　名古屋まで
お痩せなされた三日月さまよ　やみのあげくのはずじゃもの
かわす枕がもの云うならば　わたしゃ　はづかし床のうち

このように、都々逸を五つつなげて節に乗せて唄います。
間に「其奴はどいつじゃ　其奴はどいつじゃ」「ドドイツドイドイ　浮世はサクサク」
など調子のよい囃し詞(合いの手)が入ります。都々逸のリズムを使って作詞をしている
と考えるとわかりやすいのではないでしょうか。
実際にどんな風に唄っているか気になる方はYoutubeで探して聞いてみてください。

残念ながら書籍ではメロディをお届けできませんが、
どうぞ唄うつもりでお楽しみ下さい。

そっと近づき指先少し舐めるようにして触れてみた
小さくふるえるうなじの汗は月の光に浮かぶ白
上目遣いであざとく誘う　こっち向いてよ茶色い目
薄い口唇掠めた頬は赤いイチゴの味がする
きみの瞳は打ち上げ花火映しきらめく星になる

福山桃歌「夏の恋」

アンドロイドは愛がわからぬ　鉄で造りしこの身体
データベースを覗いてみても　恋のいろははありはせぬ
熱を持たない肢体を包み　いつも微笑みくれた人
ぬしはそれでも大事なものよ　すべがなくとも愛したい
0と1とで弾き出された　それがすなわち愛なのだ

ほいる「アンドロイド」

桜舞い散る雷門で　凶を引かせる浅草寺
悪い神籤を笑った主の　襟を眺めて袖を引く
まぶな話はからきし駄目で　言葉足らずにうなじ染め
行ってくらぁと襷をかけた　背中見送る日本橋
惚れたはれたで四の五の言わぬ　義理と人情が江戸の華

小早川「江戸」

明日を信じて生きてる人に　降らす無情の　鉄の雨
死んだ我が子を抱き泣く母へ　天の救いは　届かない
上がる火の手の猛威はやまず　一人一人と　炭になる
狂った馬と人目の牛の叫びも聞こえぬ　無の世界
国はスペイン場所はゲルニカ　街すら消した　人の業

猫亭屑屋「ピカソ」

ほんに欲しいは旦那の情け　間夫の情などいりんせん
手練手管の花魁調子　上目使いにゃだまされぬ
かわすばかりで口説いちゃくれぬ　ほんに意気地のないお方
責めてくれるな意気地のなさを　高嶺の花にゃあ手は出せぬ
わっちが花だとどなたが決めた　主とおんなじ意気地なし

ふちさき、小早川「廓」

灯りつけるかそれとも消すか　迷う男のじれったさ
丸く赤らむ二つの小豆　口に含むも味はせぬ
ゴムをつける手汗ばむ指に　ゴミが増えてく　もう一度
沈む身体がぴくりと止まり　遠い目をして「ちょっと出た…」
そんな彼でも私は好きよ　しょげるこうべを抱き寄せる

ほいる「ごごごごうどぶし」

寄せて返すは思い出の波　君と出会った春祭
雨よ止めよと祈った宵に　星を探した帰り道
言葉はなくともおんなじ空を　並んで見上げた月兎
名残惜しんで話したからか　君が出たから良き夢見
どこへ行くとは互いに言わず　たださよならと花の下

歌の解釈：
春から夏(七夕)、秋(十五夜)、冬(初夢)、そして春(花)。
巡り変わっていった一年を詠みました。

ごろー「春夏秋冬春」

吾の袖口　露など置かぬ　恨みでこの身を　燃やすのみ
唯の一言　すまぬの言葉　ぬしの口から　聞きたいの
知らぬふりして　耐えては居ても　嘆き溜息　漏らす口
足りないものは　ぬしへの別れ　口でなぞった　さようなら
すぎてしまった　思い出のひと　幸せを願う龍安寺

Y.G「吾唯知足(ワレタダタルヲシル)」

歌の解釈：
龍安寺にある蹲踞がモチーフ。
今回は「吾唯知足[われ・ただ・たるを・しる]」の解釈を採用し、『フラれて荒れる→悲しい→気持ちの整理→相手の幸せ願う』という気持ちの変化の中で、「足る＝気持ちが満たされる」を知る事を詠ったつもりです。
歌の頭は「吾唯知足」の四文字、歌中に「口」を一度使うようにしました。

注釈：

龍安寺[りゅうあんじ]にある蹲踞[つくばい]（手水鉢[ちょうずばち]）とは、京都市右京区にある龍安寺の手洗い用の水を貯める石。

石には真ん中の四角い水を貯める部分を「口[クチ]」と解釈したうえで、周りの文字と組み合わせて「吾唯知足（吾唯足知、唯吾知足）」と読む事ができる。

ツイッター都々逸　返歌二十五選

恋愛本能　目覚めて今夜　君を本気で狩りにいく　ごろー

―罠を仕掛けて　策巡らせて　寝かせぬ夜の　返り討ち　猫亭屑屋

Q.僕のこころは生きていますか？ A.心肺停止の様子です　あやめ

―Q.僕のかわりに生きてみますか？ A.こころは交換できません　砂漠谷レマ

―Q.心を殺して蘇生しますか？ A.いいえ逝きますあなたごと　小早川

黒が似合いの女になると決めた　あなたが死ぬまでに　みそ味

―君を泣かせる勝手な僕を　振り返るのは許さない　小早川

―過去にではなく残りの命　居ないあなたとすごしたい　Y.G

―残り少なき蝋燭の灯を　映す白衣のきみでいて　みそ味

―彼岸の主とは結ばれ続け　閻魔も切れぬ赤い糸　Y.G

私はあなたのものです　だから　殺してみせて心から　　豆太

―　お前が私の持ちものならば　価値を損なう真似はせぬ　　せいや

賽銭箱を　覗いて見たら　中の何かと　目が合った　　猫亭屑屋

―　賽銭箱を塒(ねぐら)にしてた　黒猫親子の猫の目か　　ふちさき

好きだ、好きです、好きだと思う　好きだったのに、好きにして　　小早川

―　嫌い、嫌いよ、嫌いだったの、嫌いなままでいさせてよ　　ふちさき

―　愛よ　愛なの　愛だったのよ　愛想笑いじゃ、なかったの　　こうじ

好きでしたなんて　言わないでよね　そんな今更　困るだけ　　ヒトガタすかい

―　君に好きだと　言えるのなんて　ほんと今更だからだよ　　Y.G

友もペットも　家族も僕も　「好き」とまとめる君の罠　　てむ

―　「好き」と「嫌い」を行ったり来たり　迷い疲れて　愛に成る　　猫亭屑屋

それは落胆 はたまた揶揄か 「今夜は月がでませんね」　下弦

― 隠れたからと 好きだと言わず 隣に座って 雲を見る　Y.G

― 月を隠した分厚い雲を 目当たり次第に睨みつけ　下弦

くだらないよと嘯くきみの 冷えたうなじを あたためる　はすむかい

― うなじだけでは 物足りなくて 身体も心も その奥も　猫亭屑屋

ダーリンダーリン 最上階から 飛び降りるから 受け止めて　ほいる

― ベイビーベイビー 落っこちといで フリーフォールでランデブー　ごろー

ふたり競り合いどちらが折れる 言うか言わぬか化かし合い　東風

― 言うてやるかと意地はる君の 態度で知れるその気持ち　ふちさき

― 言うか言わぬか 幾年過ぎて 言わぬが花と 実をつける　猫亭屑屋

昨日のことは忘れてあげる　乱れたあなたのひとりごと　小早川

―酷い御人ね忘れろなんて　きりりと爪が背に沈む　あっくん

―忘れようにも忘れも出来ぬ　あなたが残した爪痕よ　ふちさき

我が恋は　一場の春夢　たやすく消えた　淡雪を真似て　あの朝に　和純

―寒椿　鮮やかに咲き　首ごと落ちた　雪の重さに　耐えかねて　せいや

手慰みにと鶴折る癖に　隠れ潜んだ　父娘の血　ふちさき

―残った端から　四角をちぎり　大小折り出す　親子鶴　下弦

染めてくれとは言ってはみたが　その気はさらさらありませぬ　あこ

―嫌よ嫌よも好きの内よと　血走った眼の雄迫る　せいや

ポストから手紙抜いてもケータイ見ても恋をしたなら普通よね？　ひらたてる

―恋をしたのを言い訳にして　犯罪　犯すのやめなさい　ふちさき

君の心が満月ならば　一つ増やそうクレーター　　ほいる

―そう簡単に射抜けるかしら　女の心は海だから　　下弦

―月の海ゆく魚雷に化けて　心の芯を撃ち抜かん　　ほいる

木枯らし荒ぶ宮城の四月　蝶が飛ぶにはまだ早い　　豆太

―桜に盃　恋う人探す　春荒城の　宴に桜(はな)　　猫亭屑屋

深い意味などないよと笑う　きみはほんとに天の邪鬼　　小早川

―笑ってないと本音が漏れて　きっと貴方を困らせる　　ふちさき

あの日、一粒　こぼした本音　沁みて芽吹いて　ほしかった　　おとした

―芽は出なかったが　それでも鉢は　捨てられぬまま　残してる　　せいや

―季節過ぎても　応じてくれぬ　それでも陽を当て　水をやる　　猫亭屑屋

魅惑の赤に彩られてる　妖艶な淑女ジュリエッタ　　福山桃歌

―　男惚れさす　ボディラインに　乗せておくれよ　赤い蛇　　猫亭屑屋

君が嫌いな　私を殺し　仮面を被って　恋をする　　トマト

―「あなたといるのに疲れちゃったの」　ほんとの君が好きだった　あやめ

ここにいるのが辛いのならば　私が代わってあげようか？　　あやめ

―　優しいあなたのいた場所なんて　卑小な僕には重すぎる　　せいや

問ノ一、僕の心を奪った君の罪は何かを答えなさい　　ほいる

―　解ノ一、窃盗の罪と誘拐幇助　さらに重ねて数知れず　　悠佳里

瞳閉ざして あの紺碧の
無窮の熱を 懐かしむ
東風

あとがき

電子書籍を作るにあたり、僕はたくさんの古典都々逸を紐解いてみました。
やはり古典は素晴らしい、ずっと語り継がれて欲しいものだとしみじみ思います。

しかし、ツイッターで「都々逸は昔のやつがいい」「現代都々逸はイマイチ、古い言葉の方がしっくりくる」なんて意見を目にすると、確かにそうだとは思うけど、現代語で詠んでいる自分が認められないように感じてちょっとへこんだりもするのです。
それでも二百年後の日本人に「昭和平成の都々逸詠みかっけぇ」って言ってもらえればいいやと自分を奮い立たせています。
だって、江戸の人は今の時事ネタは詠めない。ハロウィンやバレンタイン、携帯電話やツイッターを詠むことはできない。僕たちがやらずに誰がやるんです、と。
なんて真面目に決意表明をしてみましたが、やはり都々逸は庶民の娯楽。粋に詠みつつ唄いつつ、ときにはふざけてみたっていいと思うんです。

たとえば替え歌。砂漠谷レマさんのコラムにもありましたが、「アルプス一万尺　小槍の上でアルペン踊りを踊りましょ」は都々逸です。「あわてんぼうのサンタクロースクリスマス前にやってきた」も都々逸です。

つまり、すべての都々逸はこの二つの童謡のメロディで歌えるということです。

「三千世界の烏を殺し～」をアルプス一万尺のメロディで歌う遊びができるわけです。

僕はこの事実を知ったとき、自作の情歌があわてんぼうのサンタクロースのメロディで脳内に流れて大変なことになりました。

皆さんにもその呪いをかけておきますね。

この本を読み終えた皆さんの頭の中は都々逸リズムに染まっていることでしょう。

ふとした会話で七七七五を踏んでしまったらもう手遅れ。

あきらめて都々逸詠みとしての一歩を踏み出してください。

この本の中に「あ、この人の都々逸好きだな」という方が見つかればめっけもの。ツイッターIDを作り、その方をフォローして眺め、ふと思いついた時に返歌などしてみ

たらいいのです。
もちろんお一人で詠みはじめても問題ありません。そのときは #dodoitsu タグをお忘れなく。タグを見た都々逸クラスタたちの誰かが絡みに来るかもしれません。
ツイッターには僕たち以外にも沢山の都々逸詠みたちがいます。タグを使って詠み人を探し、お好きな方をフォローして、お好きな言葉で自由に遊んでみてはいかがでしょうか。

僕がツイッターをはじめてもうすぐ二年。はじめはひとりで細々と詠めばいいと思っていたのに、いつのまにやら大所帯。あまつさえ本まで出してしまいました。人生というのはどう転ぶかわからないものです。
とはいえ、二年かけてこの程度の規模。日々の活動については推して知るべしです。ゆるりゆるりとマイペースでやっていますし、そもそも子持ちの社畜ですのであまり顔を出さない時期も多々あります。僕以外の面々も同じような感じですので、深く考えずお気軽に、生温かくお付き合いいただければ幸いです。

電子書籍を作ろう、そう思い立ったのは七月九日のことでした。
それからたったの三週間。そんな短い期間でこの本は完成しました。執筆を名乗り出てくれた都々逸クラスタの面々が、それぞれの得意分野で力を尽くしてくれたおかげです。この場を借りてお礼申し上げます。

そんな短い期間で作り上げた本ではありますが、ざっと読んで油断してはいけません。凝り性の都々逸詠みたち、あちこちに折句を隠しているかもしれませんよ。

唄う阿呆に詠む阿呆、都々逸好きたちゃみな阿呆。
どうせ阿呆なら踊らにゃ損よ、おいでおいでと手を招く。

都々逸がもうほんの少しだけ普及することを願って。

二〇一三年七月三十一日　　小早川

執筆者一覧（五十音順・括弧内ツイッターID）

あこ（@iwtku）

これを機に高校生都々逸クラスタが増えますように！

あっくん（@seamallow）

この企画で都々逸とサクセスが広まりますように。

姐御（@Ane5o_kiyouken）

ツイッターと どどいつの あいしょうは ばつぐんだ

あやめ（@ayameyame）

都々逸には文法も語彙もいりません。楽しかったです。

ト部（@n_urabe）

今日も今日とて都々逸交はし懸想だちたる時の過ぐ

おとした（@truembrace）

「都々逸、ええよな」と思わせてくる人たちがいます。

楓ようこ（@duomaple）

自作の都々逸に曲をつけて演奏できる日がくると良いな

下弦（@kagen_s）

#dodoitsu（どーもどーもいつもありがとう）

和純（@kasumivoice）

粋で愉快な皆さんが大好きです。出逢えたご縁に感謝！

こうじ（@peperoncino_k）

蚊帳の外から踊っていたら、堀が埋まった電子書籍。

東風（@kochi_192）

棚からぼた餅すら満足にキャッチできないような奴です

小早川（@dodoitsu_）

編集大変すぎてハゲかけました。サクセス！

ごろー（@urashimagorou）

新しい形のイベント企画。参加できて楽しかったです。

砂漠谷レマ(@splanxnizomai)　塩うま

せいや（@fl_for_Al）　笑い励まし時にはどどど　都々逸詠みのヌクモリティ

てむ（@temchan）　都々逸は、何気ない時間を留めておいてくれるもの

とと こ（@FNAWO）　葉緑体を大きくしたら枝豆になるのだと思う

トマト（@vol_008）　赤いトマトをたたいてみれば文明開花の音がする？

猫亭屑屋（@gattonellauto）よれば楽しい　掛け声ひとつ　レッツ都々逸　夜は耽る

猫屋久太（@nekoya222）　生クリームとカスタードにもふもふされたいお年頃

はすむかい（@hasmkai）　罵られたい人、常時募集中です。やさしくします。

ヒトガタすかい(@hitogatasky)　僕のことなら忘れて欲しい僕の歌だけ覚えてて

ひらたてる（@BB_teru）　酒に野球に都々逸短歌あとは…やっぱりもう一杯

福山桃歌(@peachsong_521)参加できて幸せです。ありがとうございました！

ふちさき（@keu_d）　なんで私が腐女子代表？

ぷっち(@_mininchu_poem)きっとここで貴方と出逢ったのも、何かの縁でしょう

ほいる(@hoiru_utayom)i）　私、脱ぐとすごいんですよ（体毛の濃さ的な意味で）。

豆太（@qwerty_misp）

役立たずのカンテラを叩き割れ。

みそ味（@misoa_ji5）

お前どどいつ　俺お笑いで　業は違えど　理解者で

悠佳里（@yukari_rito）

粋でいなせなあんたが好きよ　日本に生まれて幸せだ♡

ルオ（@ruo129）

普段は某幻想楽団を愛し飛び回る、文字書き白梟です。

Y.G（@ygygygyg2507）

ときどき、型を気にせず、返歌と恨み節を詠んでます。

以上　三十二名

都々逸ヱレキ冊子　唄う阿呆に詠む阿呆

二〇一三年八月七日　発行

執筆　都々逸クラスタ一同
装丁　猫屋久太
編集　小早川禿秋

本書の内容についてのご意見・お問い合わせは
編集者のツイッター(@dodoitsu_)にお願いします。

Gatto
nell'auto
猫
姐
Pesce
in carta